

C/C++言語 ソースコード・アナライザ



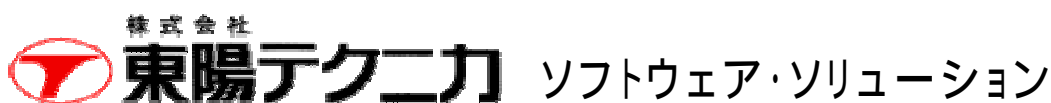
Windows 版

*Microsoft Visual C++ .NET 2003*  
インテグレーション・パッケージ  
利用手順書

2008/1/23 Version 1.10



Programming Research Ltd.



# 目次

はじめに.....	3
<b>1. インストール.....</b>	<b>4</b>
1.1.  QA C++のインストール .....	4
1.2.  Microsoft Visual C++ .NET2003 インテグレータ.....	4
1.3.  インテグレータのインストール.....	5
1.3.1.  インストールされたファイルの確認.....	9
1.3.2.  インストールされたアドオンの確認 .....	14
<b>2. Visual Studio インテグレータを用いた解析 .....</b>	<b>16</b>
2.1.  事前設定.....	16
2.2.  解析手順.....	17
2.2.1.  ファイルの解析 .....	17
2.2.2.  解析結果の再表示 .....	19
2.2.3.  プロジェクトの解析 .....	20
2.2.4.  プロジェクト解析結果の再表示 .....	24
2.2.5.  QAC++プロジェクトの作成.....	25
2.2.6.  QAC++ GUI の起動 .....	26
2.2.7.  解析の中止 .....	27
2.3.  解析設定の変更 .....	28
2.3.1.  解析設定項目の意味.....	30
2.3.2.  設定変更例 .....	31
<b>3. Visual Studio から QAC++プロジェクトへのコンバート .....</b>	<b>33</b>
3.1.  事前準備.....	33
3.2.  プロジェクト・コンバータのオプション .....	33
3.3.  プロジェクト・コンバータの実行例 .....	34

## はじめに

本書は、英国 Programming Research 社(以下:PRL 社)製の C++言語ソースコード・アナライザ QAC++ Windows 版を Microsoft 社の Microsoft Visual Studio .NET 2003 (以下 VS2003 と略す) 上で動作する Microsoft Visual C++ .NET 2003 (以下 VC++2003 と略す) と連携して解析する手順について記述していません。

### 注意事項 (必ずご確認ください):

#### [項目 1]

本書は、QAC6.2J 以上のすべてのバージョンの QAC および QAC++2.1J 以上のすべてのバージョンの QAC++ に適用できます。

#### [項目 2]

QAC++ はアンマネージド・コードのみを解析することができます。マネージド・コードは解析できないので注意してください。

#### [項目 3]

VS2003 インテグレータは QAC と連携することもできますが、本書では QAC++ と連携することのみを前提として説明します。

#### [項目 4]

VS2003 インテグレータは同時にそれぞれ1つのバージョンの QAC と QAC++ としか連携できません。連携する QAC と QAC++ を変更する場合は、VS2003 インテグレータをインストールしなおしてください。

# 1. インストール

本章では、VS2003 インテグレータのインストール手順を説明します。

## 1.1. QA C++のインストール

QA C++本体のインストール手順は、製品付属のインストールガイドをご参照ください。

[資料] [\[QAC++ Install Dir\]¥help¥pdf¥QACPP-2.3.1J-InstallationNotes.pdf](#)

## 1.2. Microsoft Visual C++ .NET2003 インテグレータ

QAC++ Windows 版は、Microsoft 社の VS2003 上で動作する VC++2003 と連携して、VS2003 上で C++ソースコードを解析することができます。VS2003 と連携するためには、下記 URL で提供されている VS2003 インテグレータをダウンロードして、インテグレータを使用するマシンにインストールする必要があります。

[URL] <http://www.programmingresearch.com/downloads/Windows/VC++Integration/VisualStudio.Net/>

[パッケージファイル名] [VSNET2003Integration1.1.3.exe](#)

パッケージファイル名は VS2003 インテグレータのバージョンアップに伴って変化します。

常に最新バージョンのパッケージをダウンロードしてご利用ください。

### **補足事項:**

VS2003 インテグレータをインストールすると、VS2003 インテグレータの本体とともに VC++2003 で開発されたソースコードを解析するためのコンパイラ・パーソナリティと、VC++2003 のヘッダ・ファイルに含まれる ISO C++言語標準に準拠していない構文を調整するための代替ヘッダ・ファイルがインストールされます。

QAC++ Windows 版を VS2003 上で連携して使用するのではなく、QAC++の GUI や QAC++のコマンド・ライン・インタフェースを使用して、C++ソースコードを解析する場合は、インストールされたコンパイラ・パーソナリティと代替ヘッダを、インテグレータを介さずに直接使用してください。

### **注意事項:**

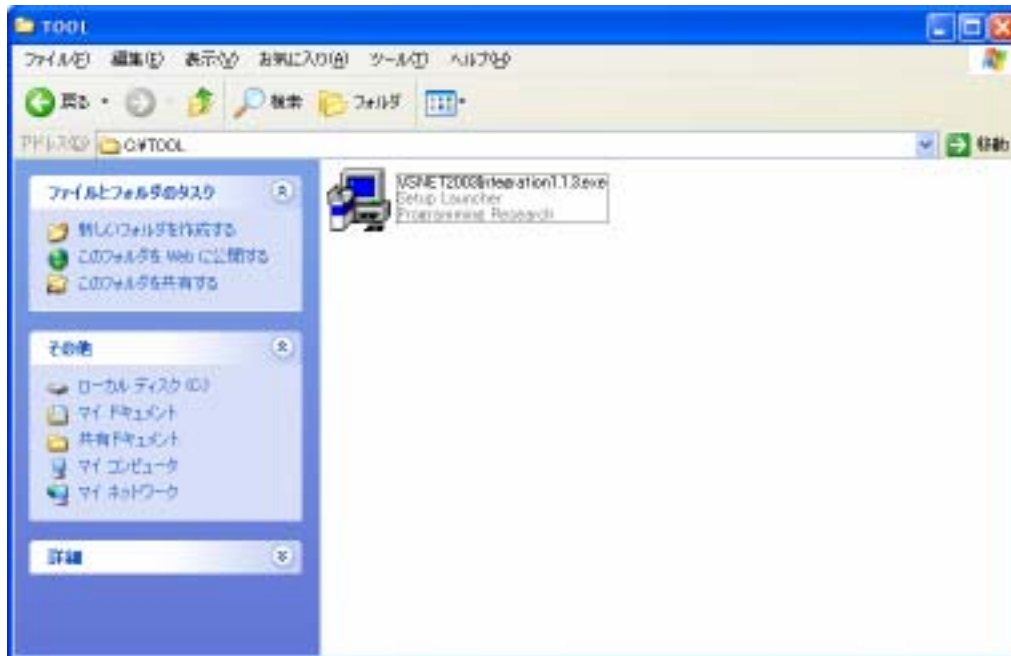
インストールするマシンには、事前に QAC または QAC++と VS2003 をインストールしておかなければなりません。

### 1.3. インテグレータのインストール

以下にインテグレータのインストール手順を Step by Step で示します。

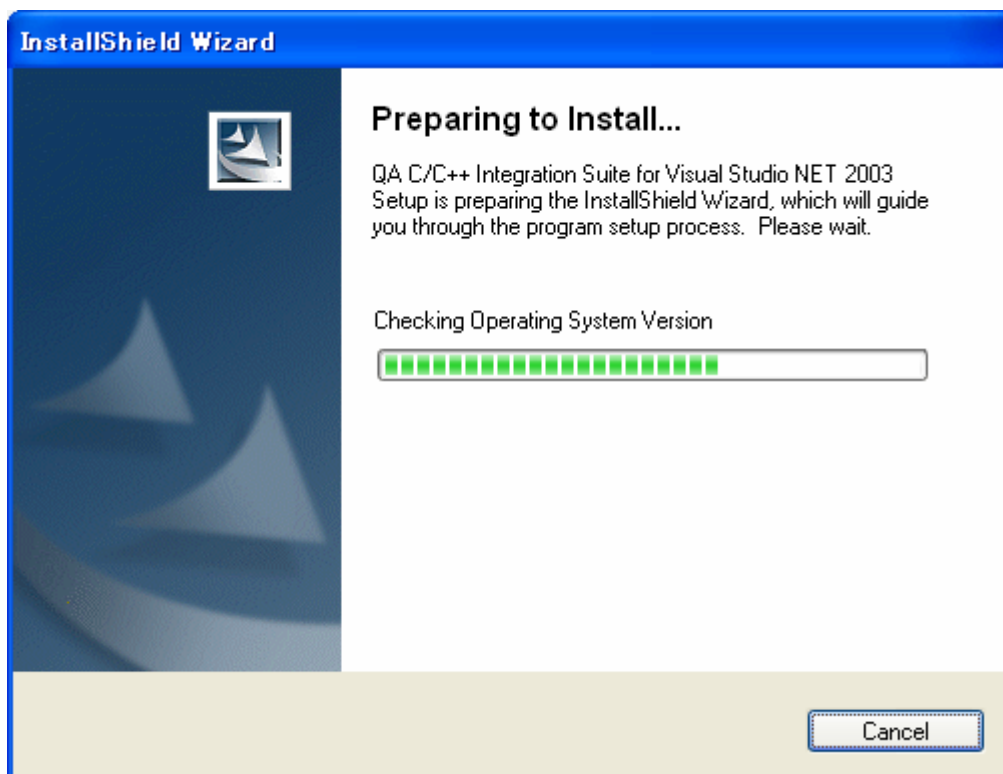
#### [STEP1]

入手したパッケージを Windows エクスプローラ上でダブルクリックします。



#### [STEP2]

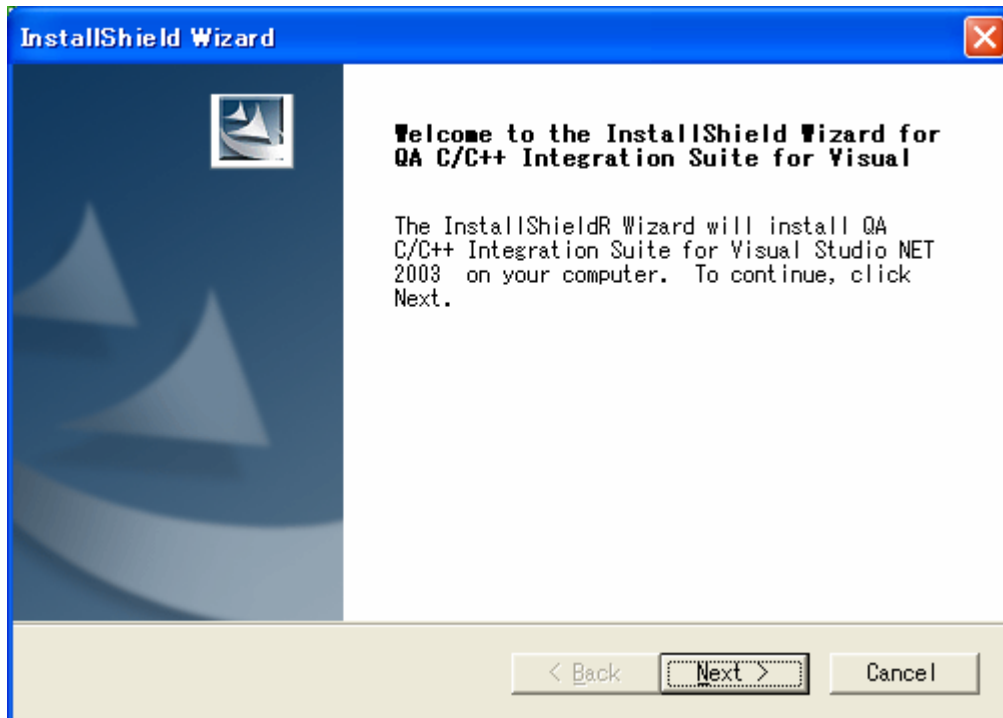
インストール準備中であることを示すダイアログが表示されるので、暫く待ちます。



### [STEP3]

インストール準備が終了すると次のダイアログが表示されます。

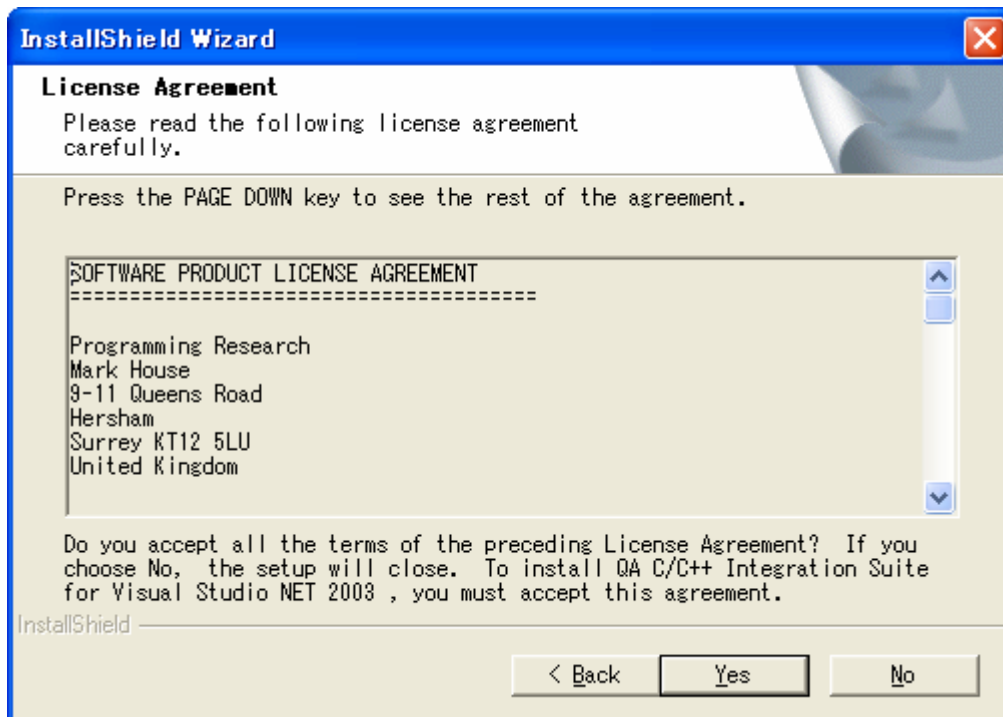
[Next >]を押して次の画面に進みます。



### [STEP4]

ソフトウェア製品使用許諾が表示されます。

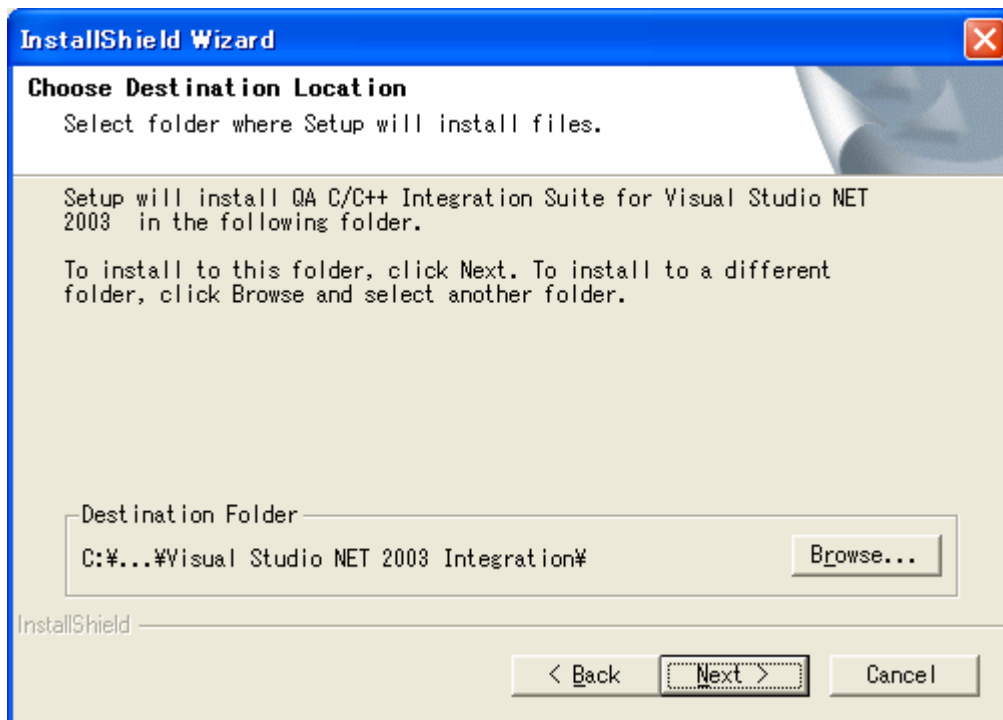
内容を承認した上で、[Yes]を押して次の画面に進みます。



### [STEP5]

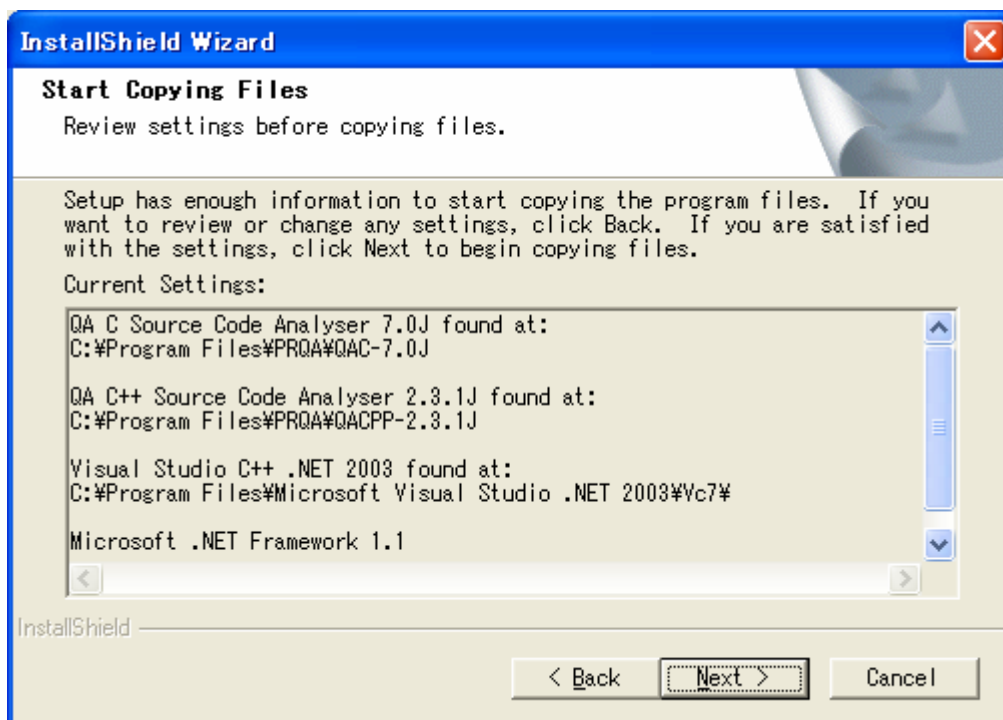
インストール先を選択するダイアログが表示されます。

必要に応じてインストール先を変更した上で、[Next >]を押して次の画面に進みます。



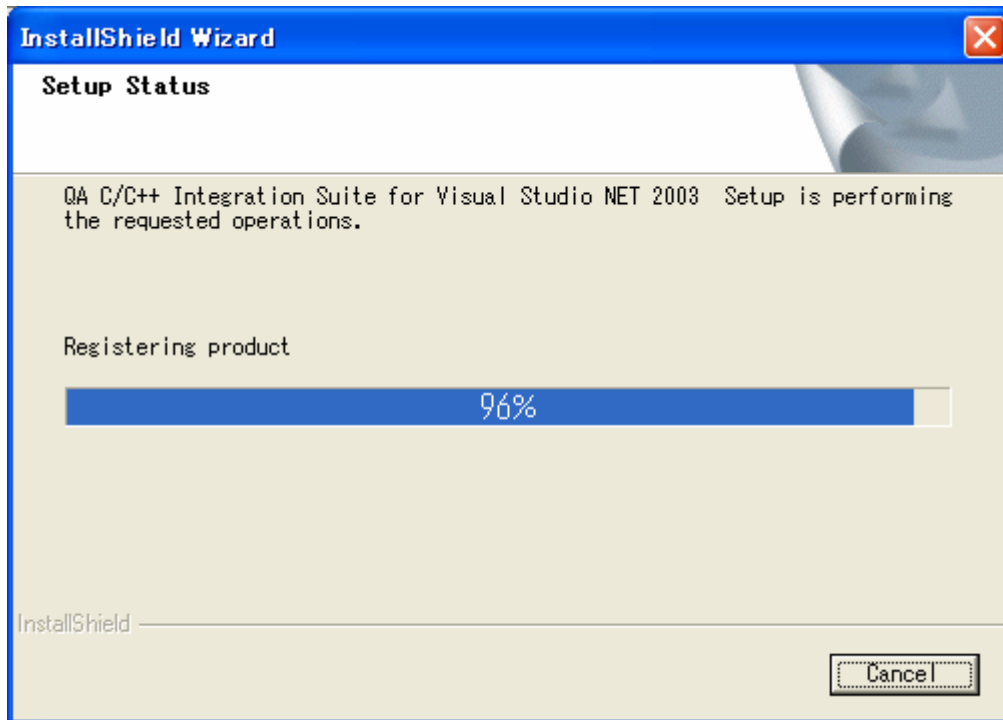
### [STEP6]

QAC++ と VC++ 2003 がインストールされている場所が自動的に検出され、ダイアログ上に表示されます。表示内容が適切であることを確認した上で、[Next >]を押して次の画面に進みます。



**[STEP7]**

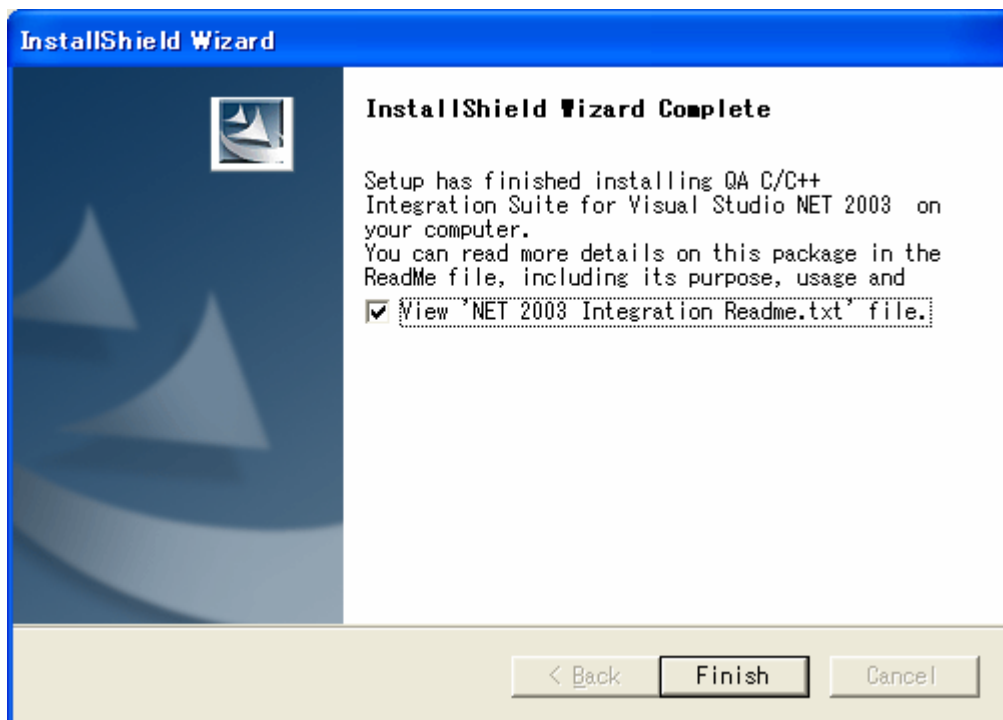
インストール中であることを示すダイアログが表示されるので、暫く待ちます。



**[STEP8]**

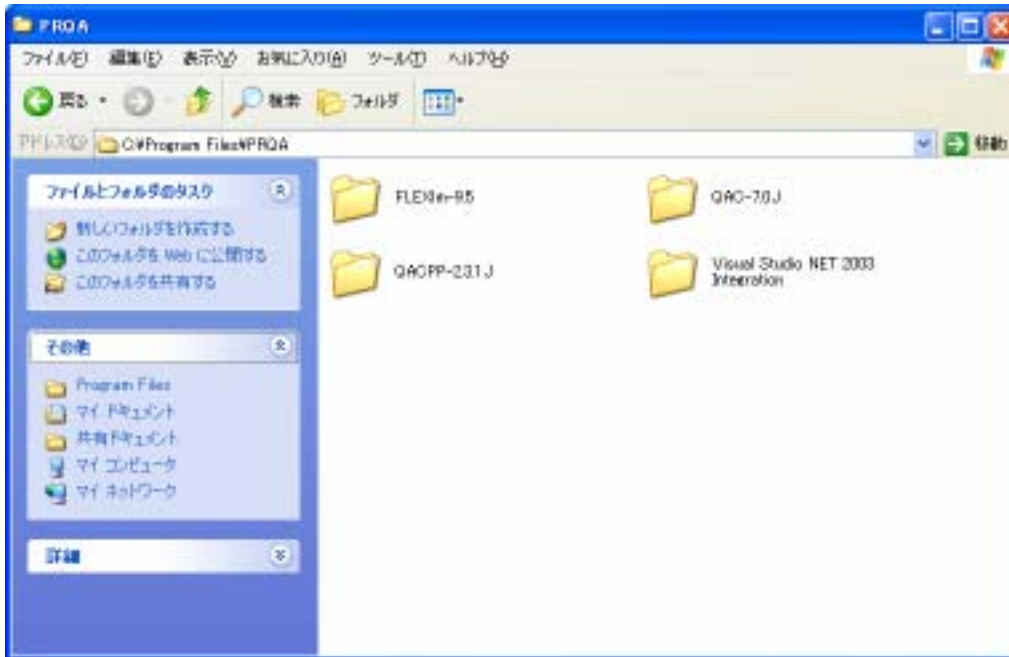
インストール完了を示すダイアログが表示されます。

[Finish] を押してインストールを終了します。

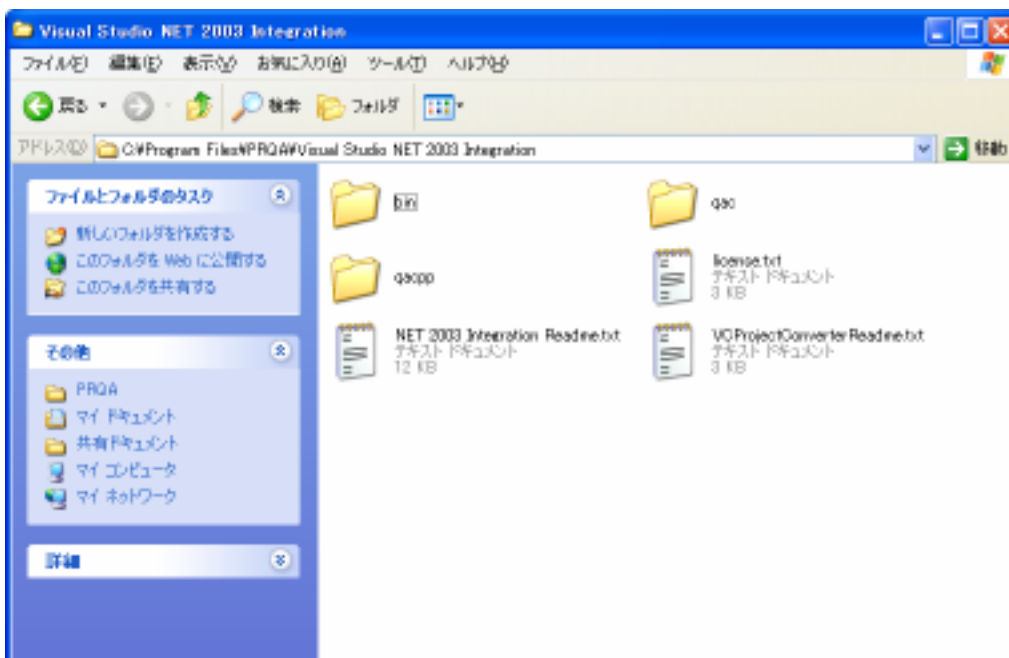


### 1.3.1. インストールされたファイルの確認

インストールが正常に完了すると、標準で次のディレクトリ配下にインテグレータがインストールされます。  
 [インストール場所] C:\Program Files\PRQA\Visual Studio NET 2003 Integration

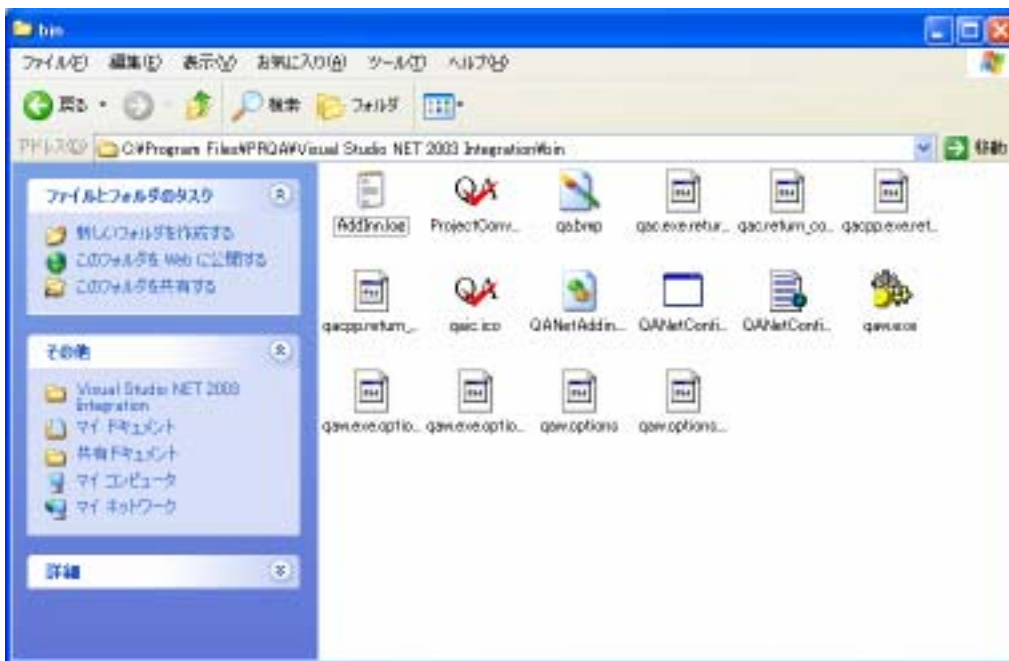


[Visual Studio NET 2003 Integration]ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。

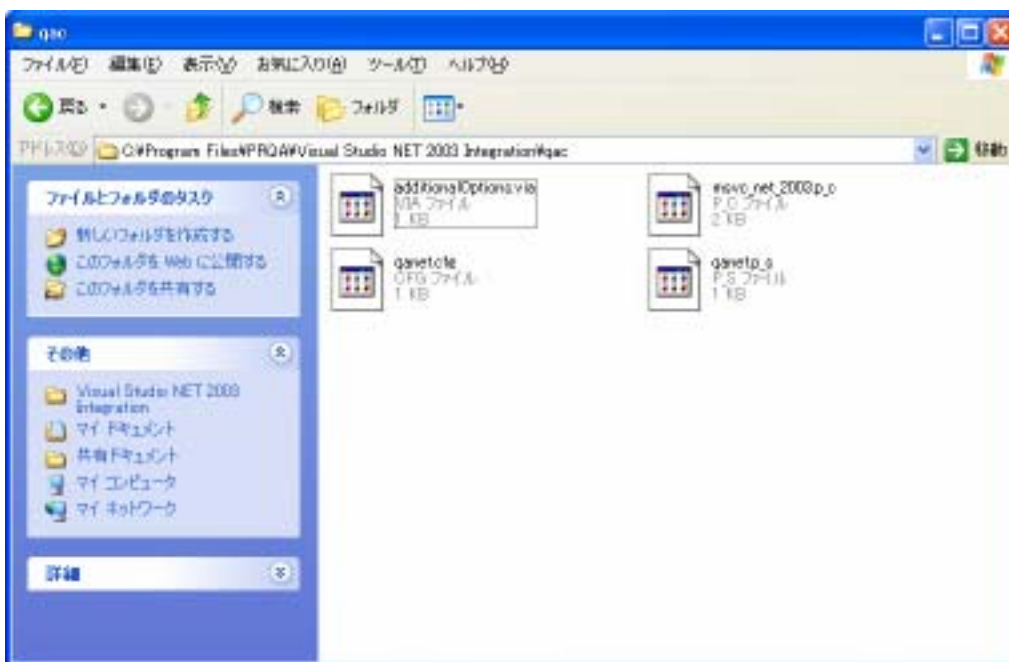


ディレクトリ / ファイル	説明
bin	インテグレータ本体と関連ライブラリなどを含むディレクトリ
qac	QAC との連携で使用する設定ファイルを含むディレクトリ
qacpp	QAC++との連携で使用する設定ファイルを含むディレクトリ
license.txt	ソフトウェア製品使用許諾が記述されたファイル
VCProjectConverterReadme.txt	Project Converter VS2003 の説明と簡単なコマンドライン・オプションについて記述されたファイル
NET 2003 Integration Readme.txt	インテグレータのリリースノートと簡単な使用方法が記述されたファイル

bin ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。  
 (ユーザが明示的に使用するものではないので、各ファイルの説明は割愛します)

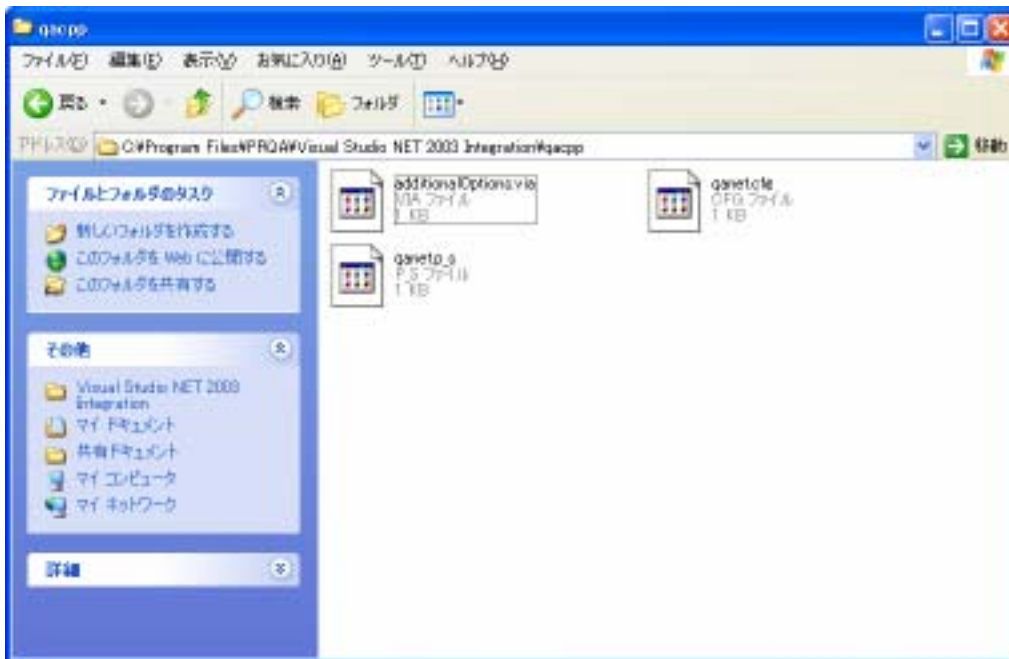


qac ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。  
 (各ファイルは QAC と連携するときに使用されます)



ディレクトリ / ファイル	説明
<a href="#">additionalOptions.via</a>	解析時に追加で適用するオプションを設定するファイル(利用方法は後述します)
<a href="#">msvc_net_2003.p_c</a>	解析時にデフォルトで適用される VS2003 用コンパイラ・パーソナリティ
<a href="#">qanet.cfg</a>	後述する解析設定ダイアログで設定した値が記録されるファイル
<a href="#">qanet.p_s</a>	解析時にデフォルトで適用されるメッセージ・パーソナリティ

qacpp ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。  
 (各ファイルは QAC++と連携するときに使用されます)



ディレクトリ / ファイル	説明
<a href="#">additionalOptions.via</a>	解析時に追加で適用するオプションを設定するファイル(利用方法は後述します)
<a href="#">qanet.cfg</a>	後述する設定ダイアログで設定した値が記録されるファイル
<a href="#">qanet.p.s</a>	解析時にデフォルトで適用されるメッセージ・パーソナリティ

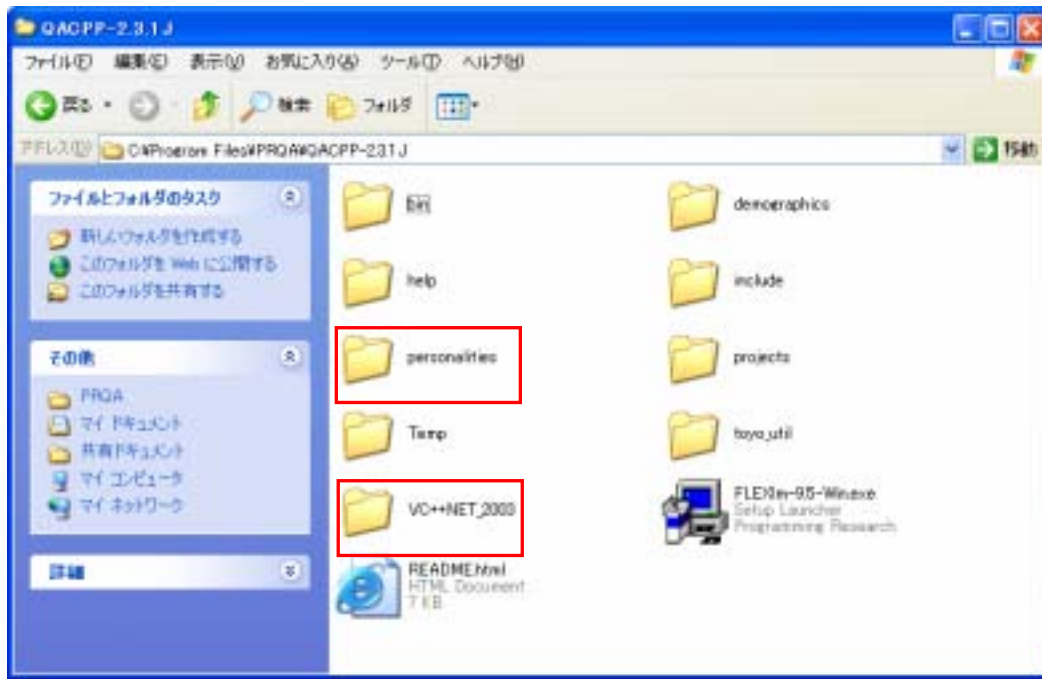
また、QAC++の本体がインストールされている QACPP-2.3.1J ディレクトリの中に追加で、VC++2003 用コンパイラ・パーソナリティと VC++2003 用代替ヘッダがインストールされます。

[インストール場所] C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1J\personalities

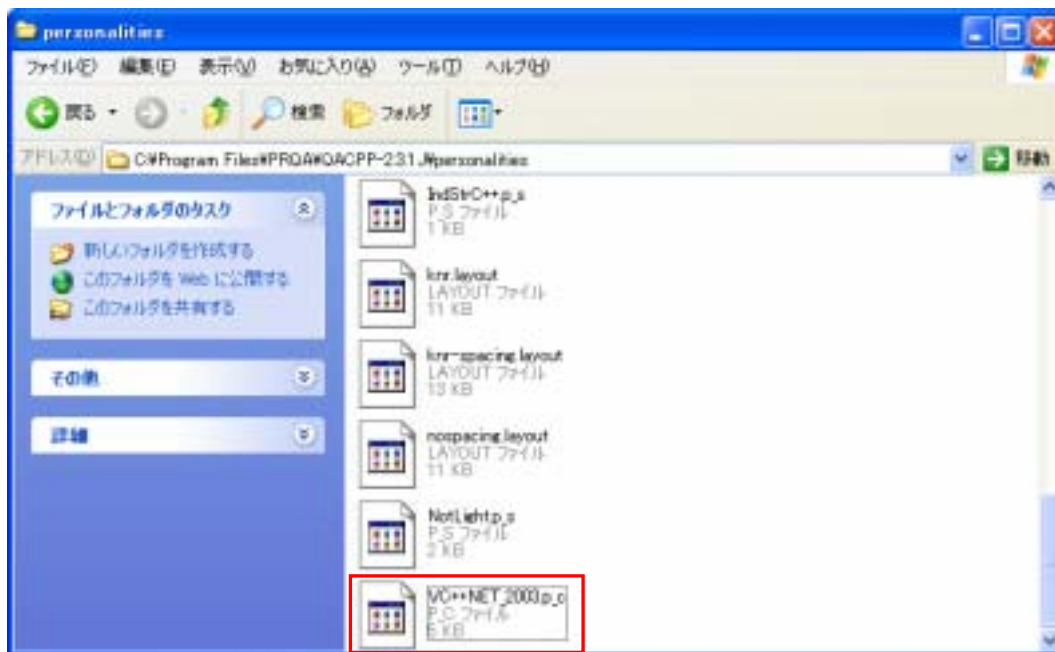
(コンパイラ・パーソナリティのインストールディレクトリ)

C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1J\VC++NET\_2003

(代替ヘッダのインストールディレクトリ)

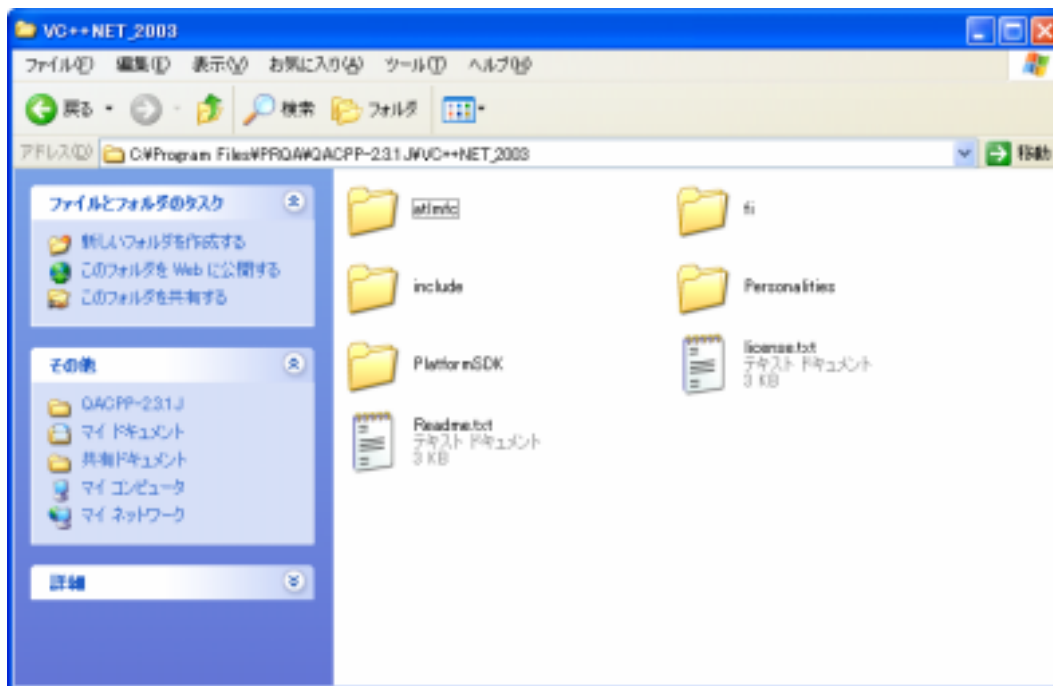


personalities ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。



ディレクトリ / ファイル	説明
VC++NET_2003.p_c	VC++2003 用コンパイラ・パーソナリティ

VC++2003 ディレクトリの中には次のファイルがインストールされます。



このディレクトリ配下のファイルは、VC++2003 用コンパイラ・パーソナリティの「-si オプション」、「-q オプション」、および「-fi オプション」で次のように指定されて使用されています。

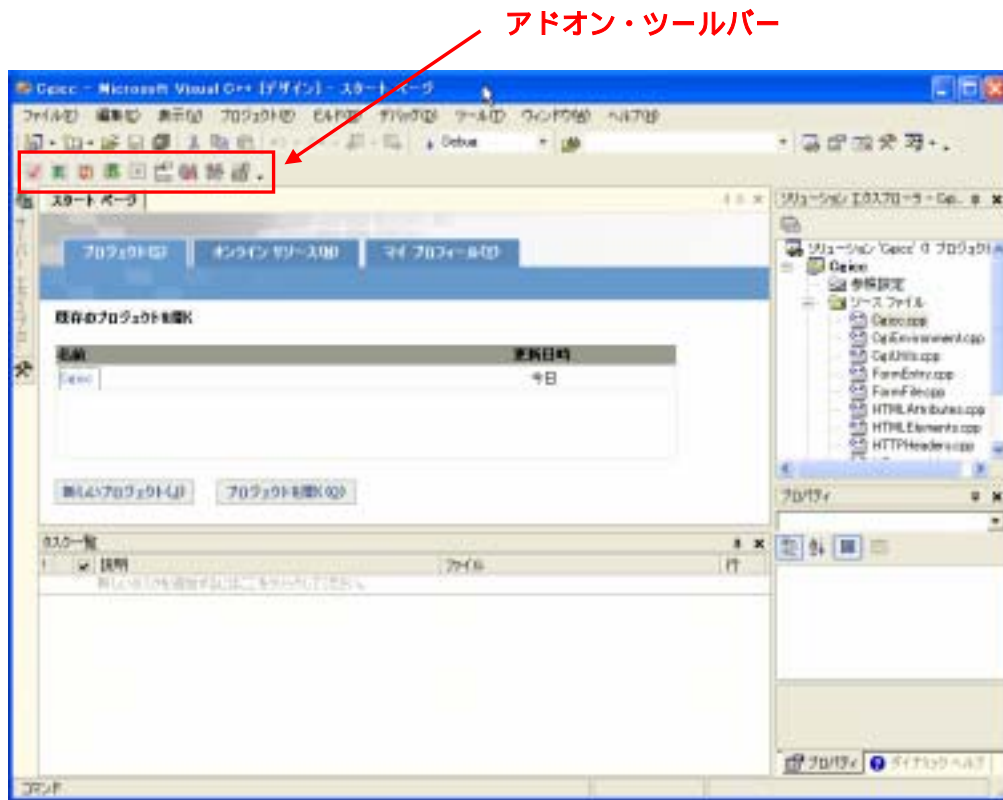
- SI "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\include"
- Q "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\include"
- SI "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\atImfc\include"
- Q "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\atImfc\include"
- FI "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\fi\VC++NET\_2003.h"
- Q "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1\VC++NET\_2003\fi\VC++NET\_2003.h"

#### 補足事項:




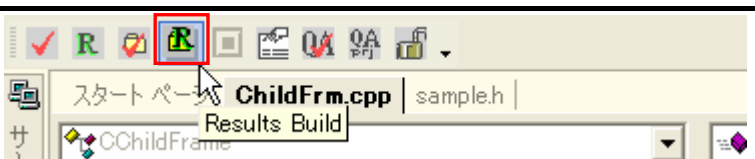
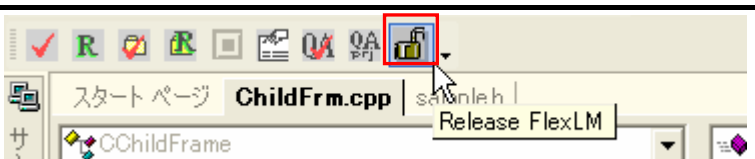
インテグレータを使用せずに VC++2003 のソースコードを解析する場合は、上述のコンパイラ・パーソナリティと代替ヘッダを直接使用してください。VC++2003 の標準ヘッダのインストール場所と代替ヘッダのインストール場所が変わらないのであれば、コンパイラ・パーソナリティを GUI のフォルダオプションやコマンドラインの -via オプションにそのまま与えて使用することができます。

### 1.3.2. インストールされたアドオンの確認

インストールが正常に完了した場合、VS2003 上に QAC++と連携するためのアドオン・ツール・バーが追加されます。



ツール・バー上のツール・ボタンについて左から順に説明します。

<p>[Analyse File(s)]ボタン</p> <p>[ソリューション エクスプローラ]上で選択されているファイルをQAC/QAC++で解析します。</p>	
<p>[Results File(s)]ボタン</p> <p>[ソリューション エクスプローラ]上で選択されているファイルの結果を再表示します。</p>	
<p>[Analyse Project]ボタン</p> <p>[ソリューション エクスプローラ]上で選択されているプロジェクト内の全てのファイルを一括解析します。</p>	
<p>[Results Build]ボタン</p> <p>[ソリューション エクスプローラ]上で選択されているプロジェクト内の全ての結果を再表示します。</p>	
<p>[Stop Analysis]ボタン</p> <p>ファイルを解析している場合に、動作処理を中止します。</p>	
<p>[Configure QA C/C++]ボタン</p> <p>インテグレータの解析設定を調整します。</p>	
<p>[Start QAC/ QAC++ GUI]ボタン</p> <p>QAC/QAC++の GUI を起動します。</p>	
<p>[Generate QA C/C++ project]ボタン</p> <p>VC++2003 のプロジェクトを QAC/QAC++ のプロジェクトに変換します。</p>	
<p>[Release FlexLM]ボタン</p> <p>獲得しているライセンスを強制的に解放します。</p>	

## 2. Visual Studio インテグレータを用いた解析

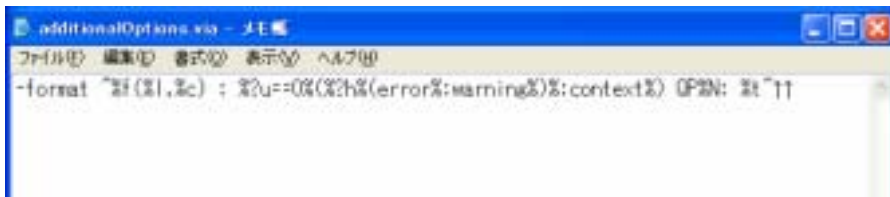
本章では、VS2003 に組み込まれたアドオン機能を使って、QAC++の GUI を起動せずに解析を行う手順を示します。

### 2.1. 事前設定

VS2003 上で解析を行う前に、次のファイルの内容を編集してください。

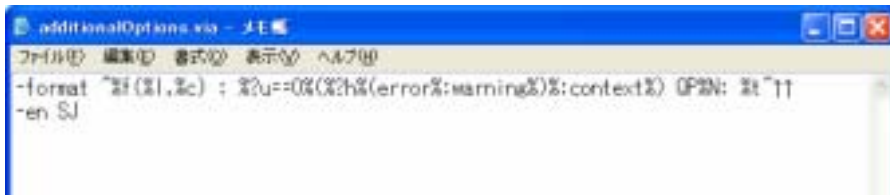
[対象ファイル] <C:\Program Files\PRQA\Visual Studio 2003 Integration\qacpp\additionalOptions.via>

初期状態ではファイルの中に「**format オプション**」だけが設定されています。この設定は解析結果を VS2003 に認識させる上で重要な設定になりますので、変更しないでください。



日本語が含まれたソースコードを適切に解析するためには、解析対象のソースの文字コードを指定するための「**en オプション**」を additionalOptions.via 内に次の通りに指定しなければなりません。

[-en オプション]        -en SJ



## 2.2. 解析手順

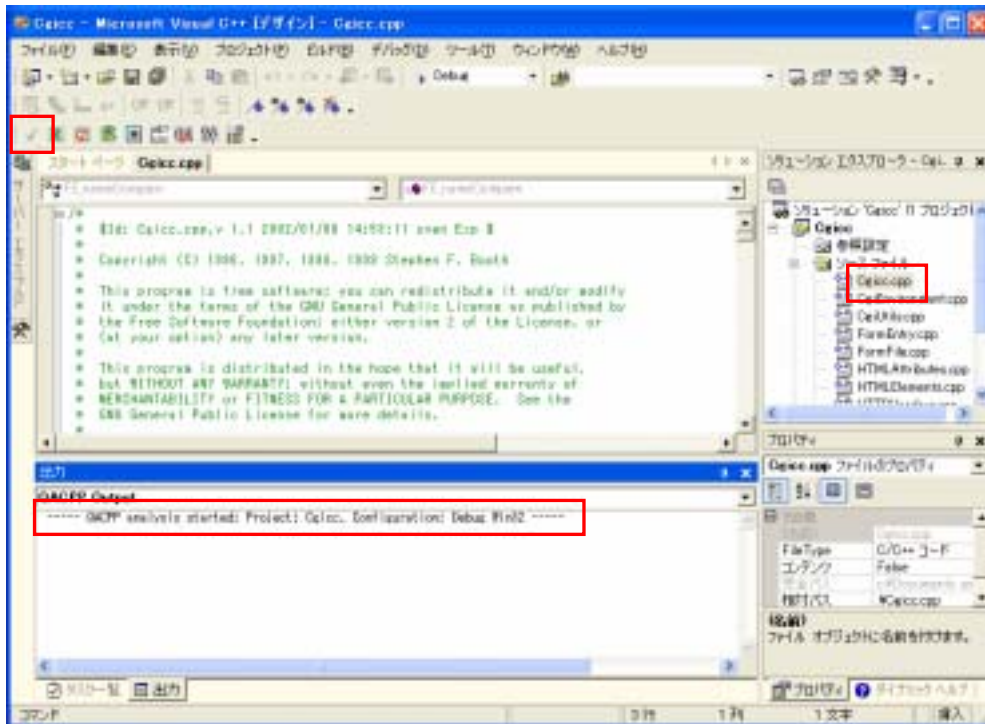
### 2.2.1. ファイルの解析

特定のソースコードを解析する手順は次の通りです。

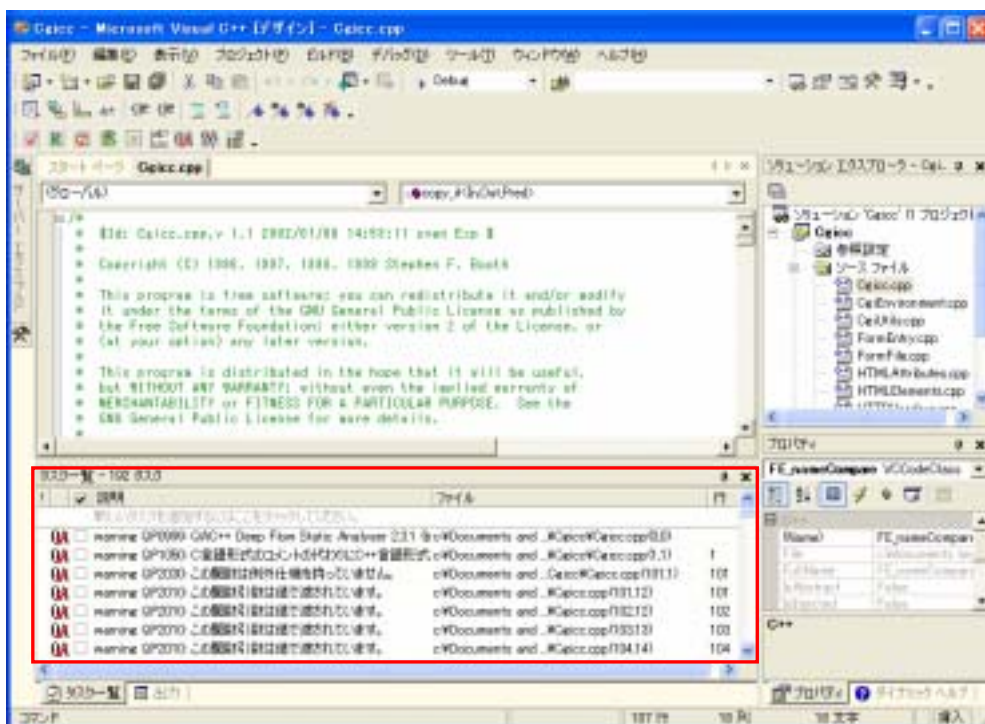
[ソリューション エクスプローラ]上で解析したいソースコードを選択します。

[Analyse File(s)]ボタンを押します。

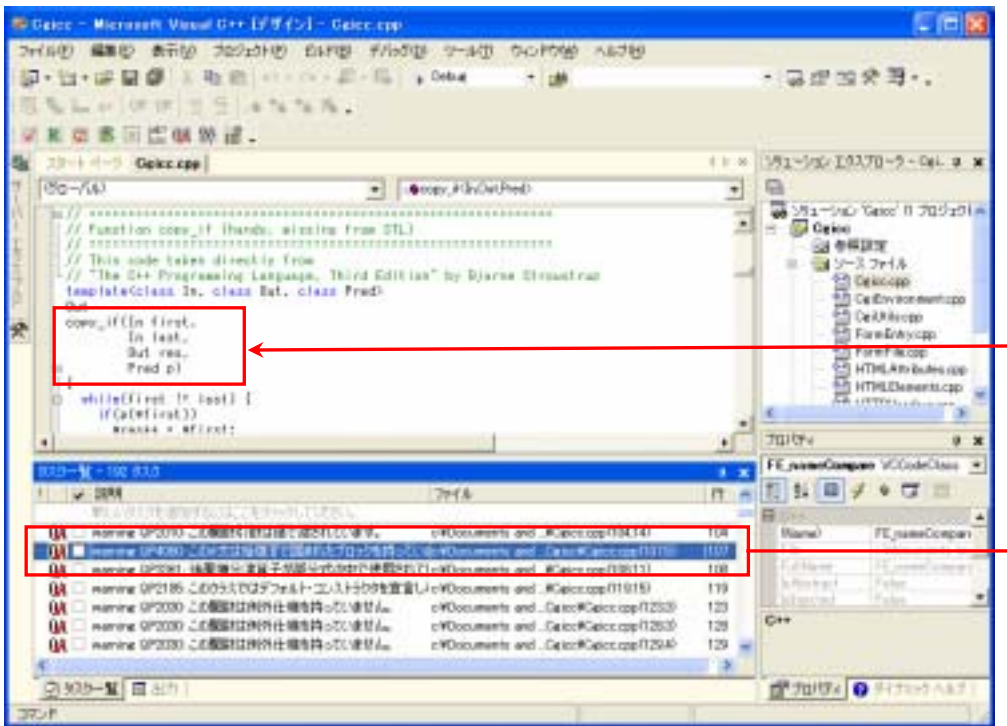
解析が始まると、画面下部の出力タブ内に[QACPP analysis started: ...]と表示されます。



解析が終了すると、QAC++の指摘事項が画面下部のエラー一覧内に[警告]扱いで表示されます。

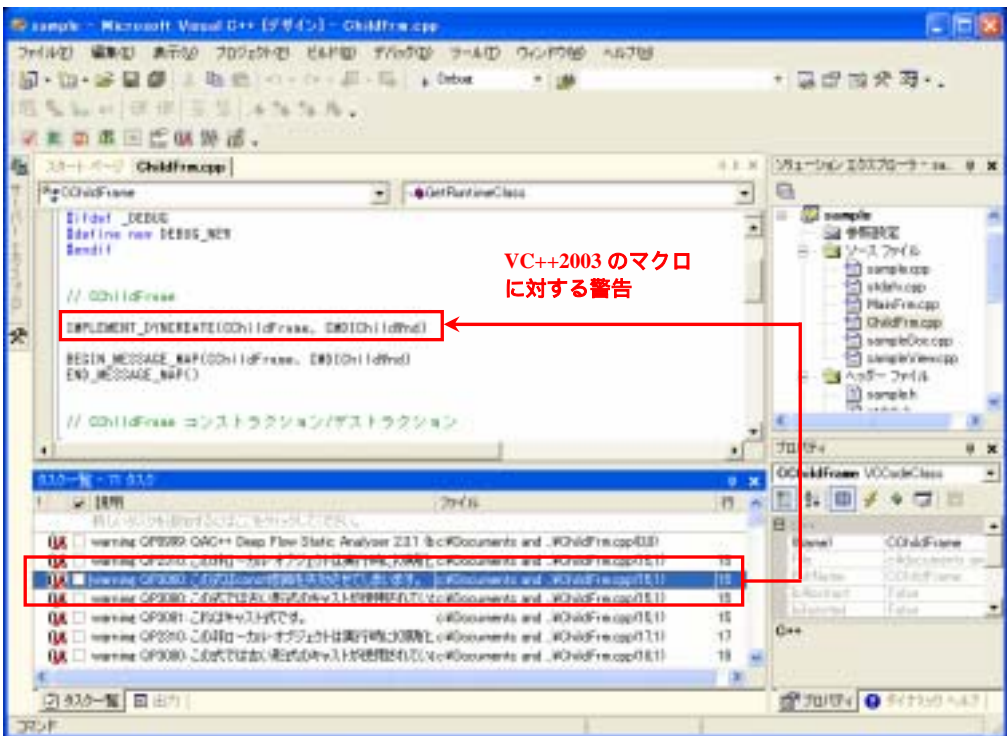


出力された[警告]をダブルクリックすると、対応するソースコード行が表示されます。



**補足事項:**

後述するマクロの警告を抑止するオプションを設定していなかった場合、VC++2003 で頻繁に使用される IMPLEMENT\_DYNCREATE, BEGIN\_MESSAGE\_MAP, END\_MESSAGE\_MAP などのマクロに対して警告が出力されます。この場合、警告が大量に出力されるので、警告を抑止することをお勧めします。



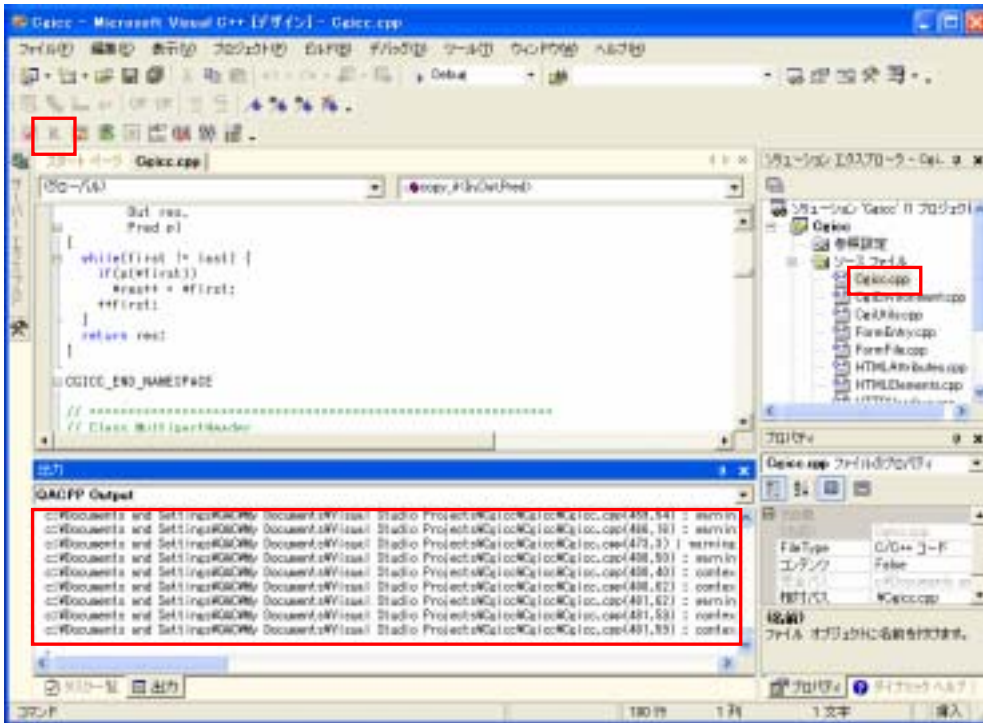
## 2.2.2. 解析結果の再表示

解析済みのソースコードの結果を再表示する手順は次の通りです。

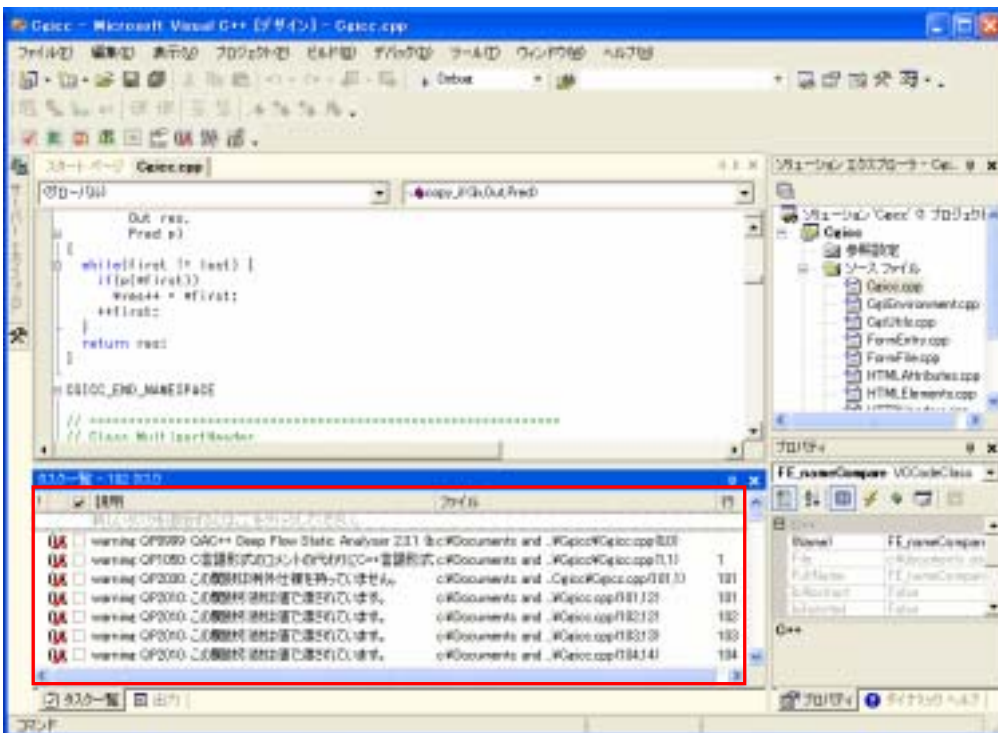
[ソリューション エクスプローラ]上で結果を再表示したいソースコードを選択します。

[Results File(s)]ボタンを押します。

画面下部の出力タブ内に再表示処理の状況が出力されます。



QAC++の指摘事項が画面下部のエラー一覧内に[警告]扱いで再表示されます。

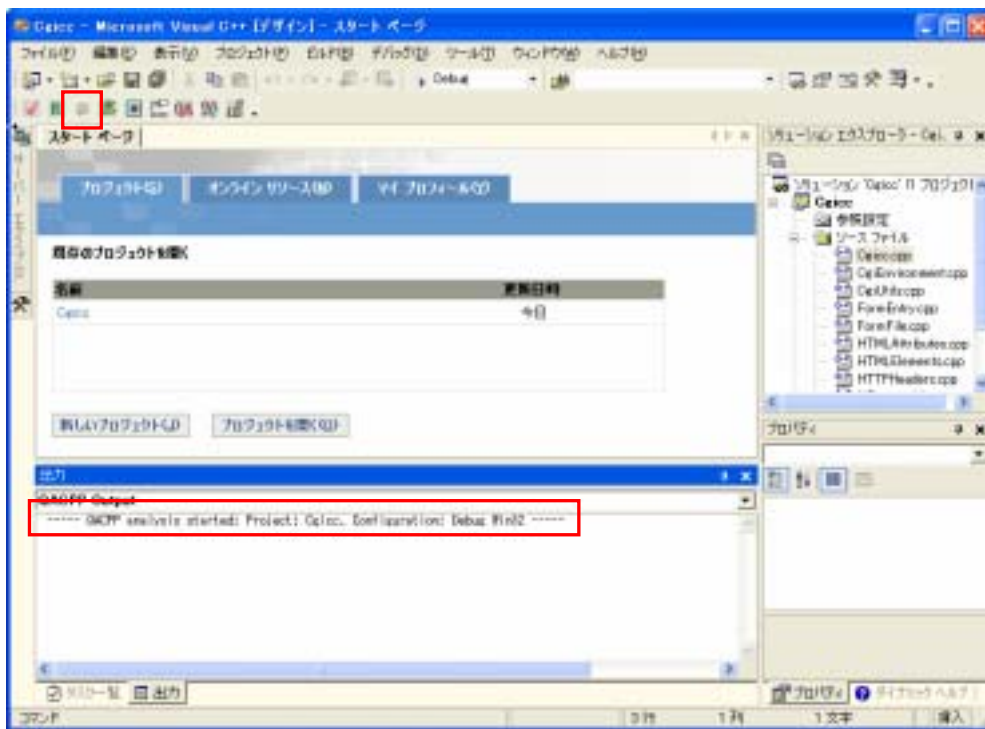


### 2.2.3. プロジェクトの解析

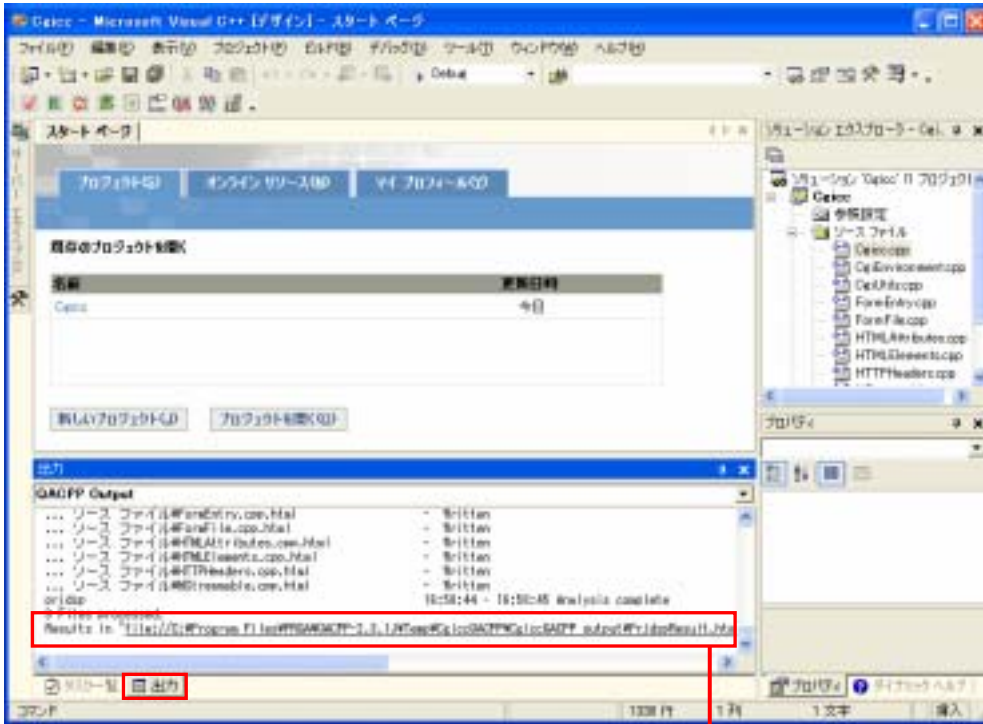
特定のプロジェクト内のすべてのファイルを解析する手順は次の通りです。

[Analyse Project]ボタンを押します。

解析が始まると、画面下部の出力タブ内に[QACPP analysis started: ...]と表示されます。

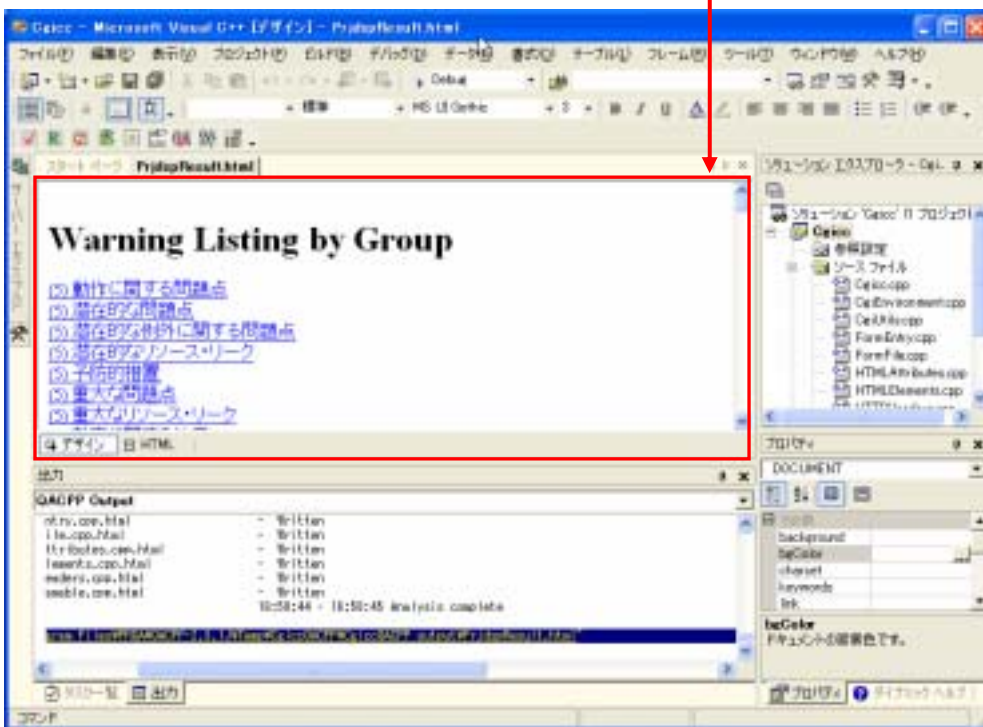


解析終了後に出カタブを表示すると、警告リスト・レポートが出力されたフォルダ名が“Results in”に表示されます。

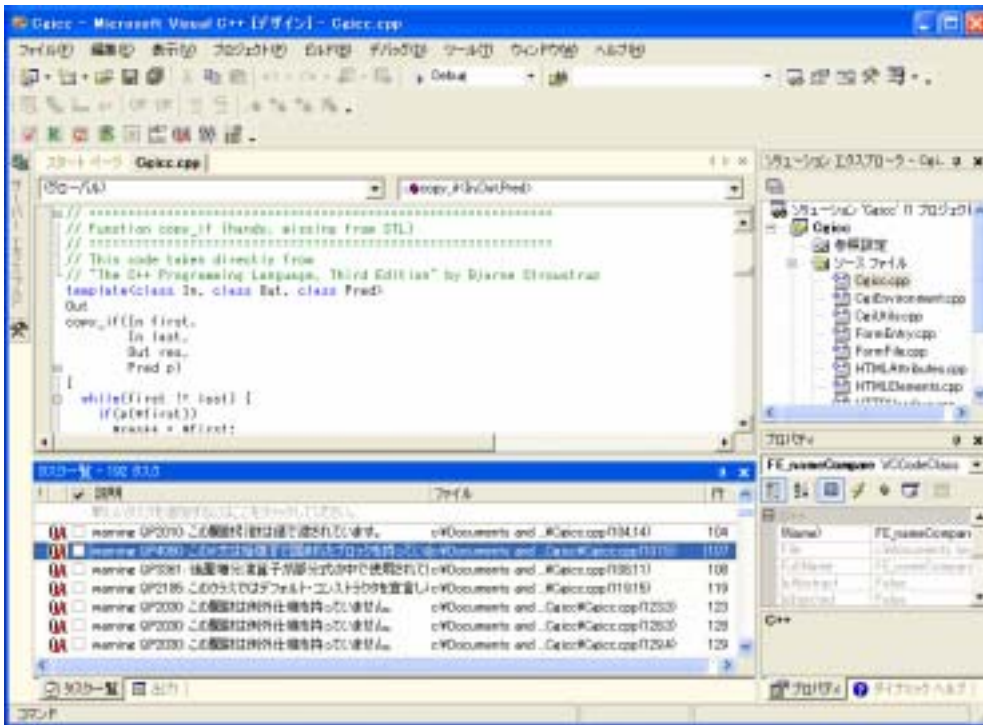


プロジェクト解析後に作成された警告リスト・レポート

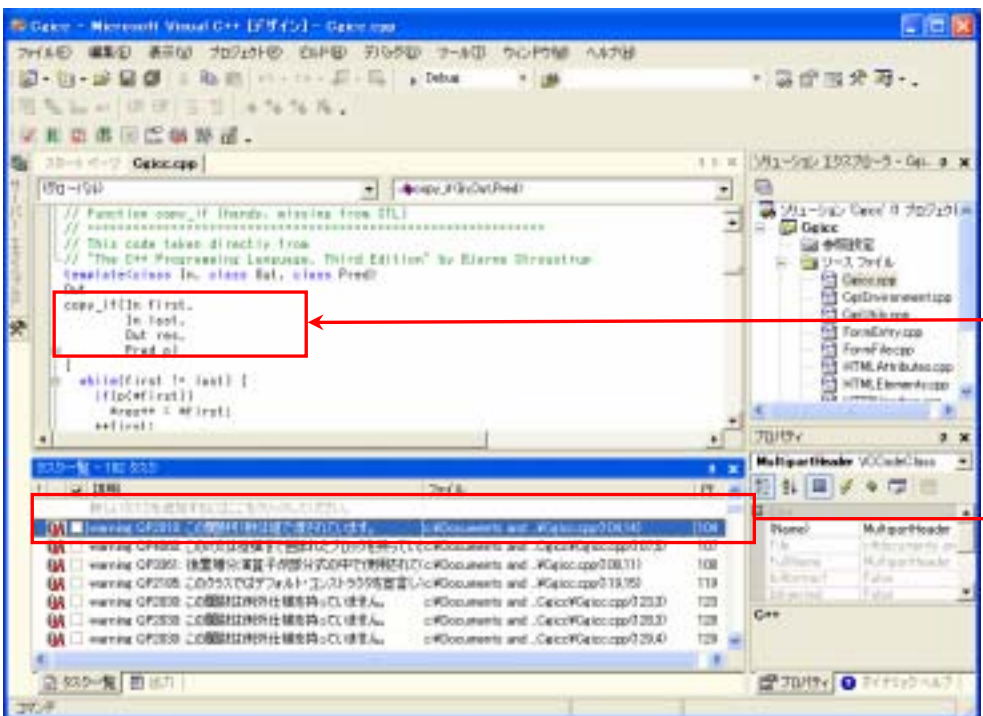
ダブルクリックしてデザインタブを表示



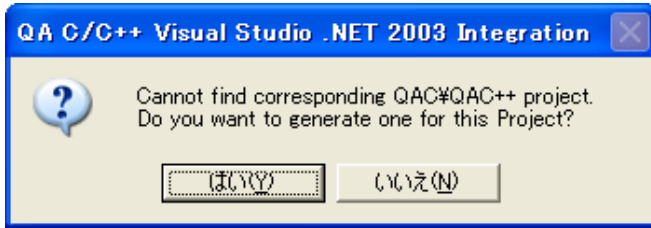
QAC++の指摘事項は画面下部のエラー一覧内に[警告]扱いで表示されます。



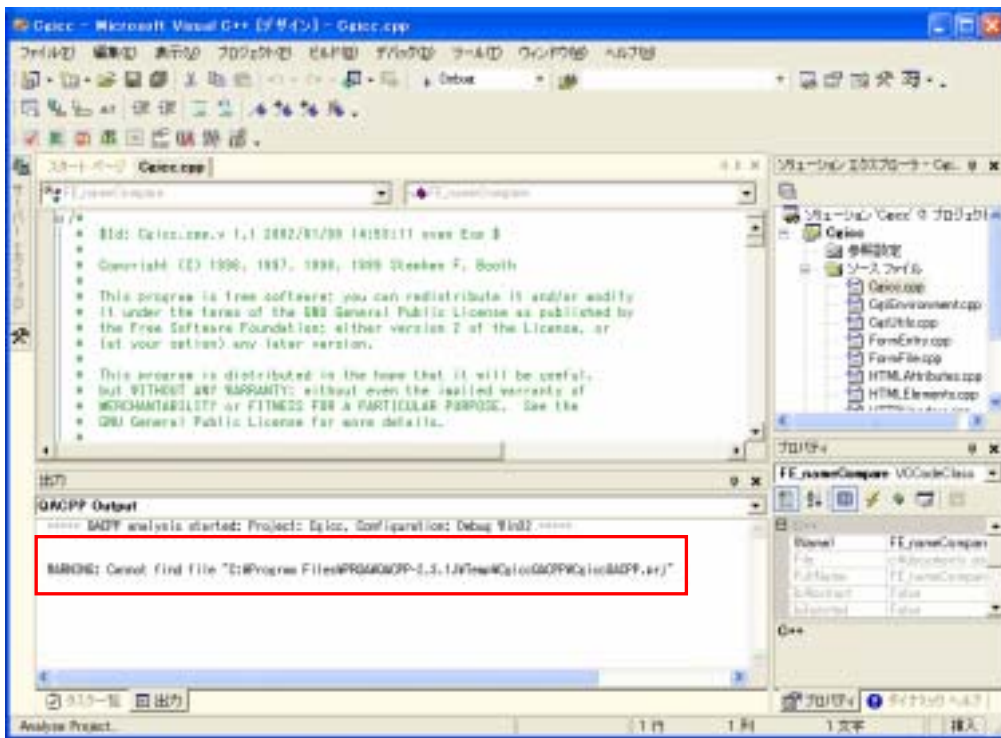
出力された[警告]をダブルクリックすると、対応するソースコード行が表示されます。



プロジェクトの解析を行う前に[2.2.5 QAC++プロジェクトの作成] を行わなかった場合は、次のダイアログが表示されます。[はい]を押すとプロジェクトファイルが作成されます。



プロジェクトの作成が完了すると画面下部に“WARNING: Cannot find file...”と表示されます。プロジェクトの解析は中止されるので、再度[Analyse Project]を押してプロジェクトの解析を行ってください。



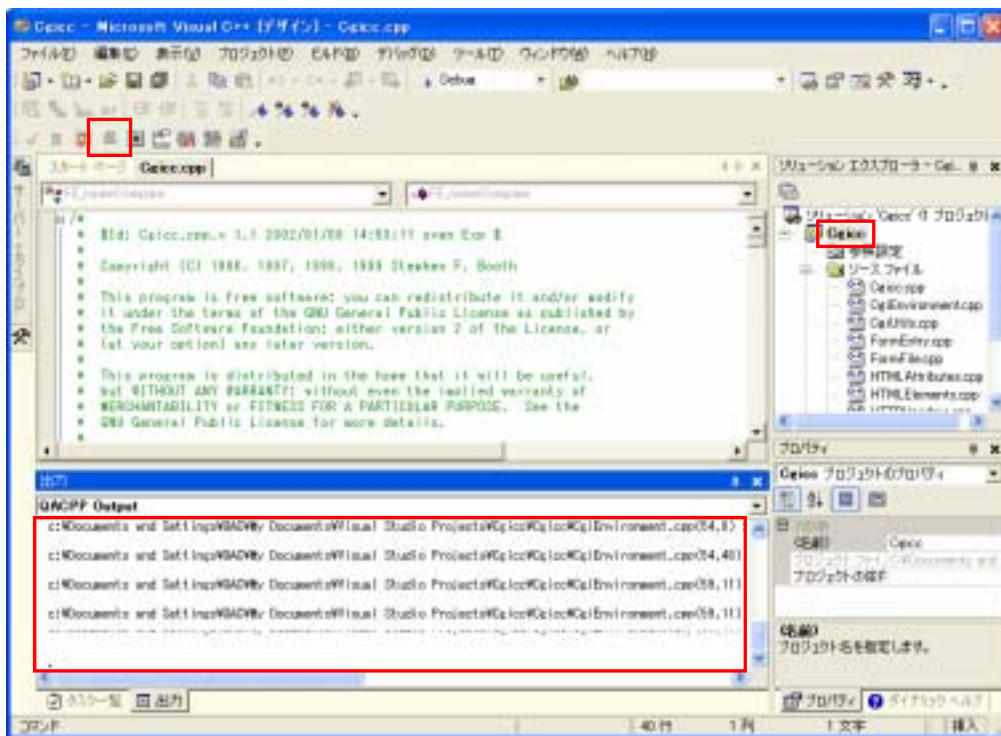
## 2.2.4. プロジェクト解析結果の再表示

解析済みプロジェクト内にある全ソースコードの結果を再表示する手順は次の通りです。

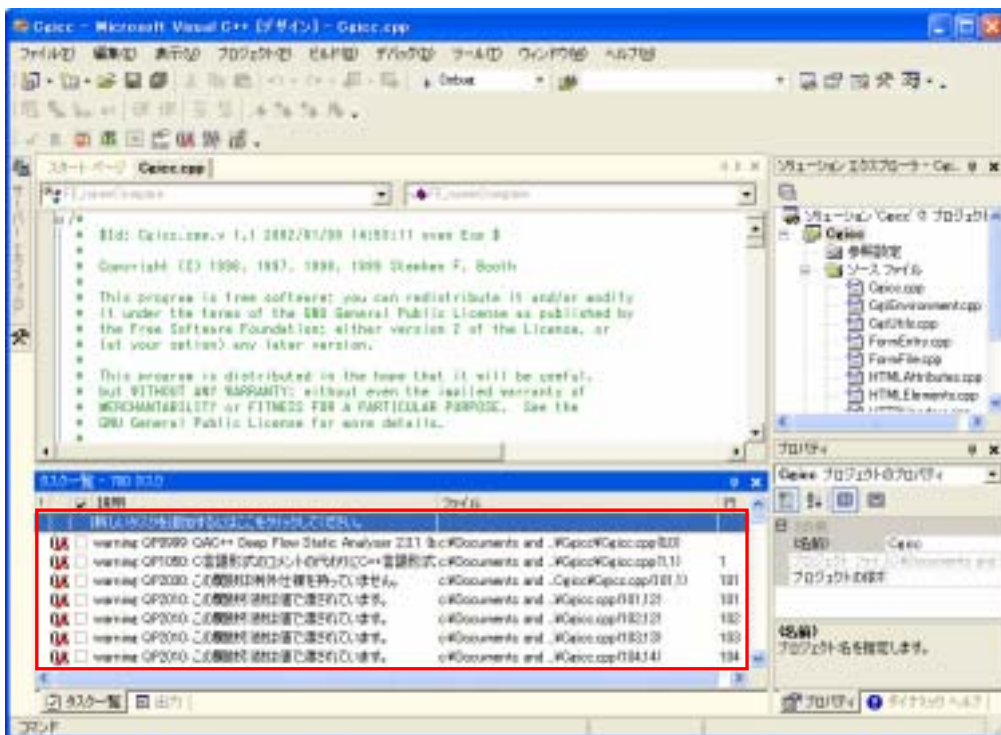
[ソリューション エクスプローラ]上で結果を再表示したいプロジェクトまたはソースコードを選択します。

[Results Build]ボタンを押します。

画面下部の出力タブ内に再表示処理の状況が出力されます。

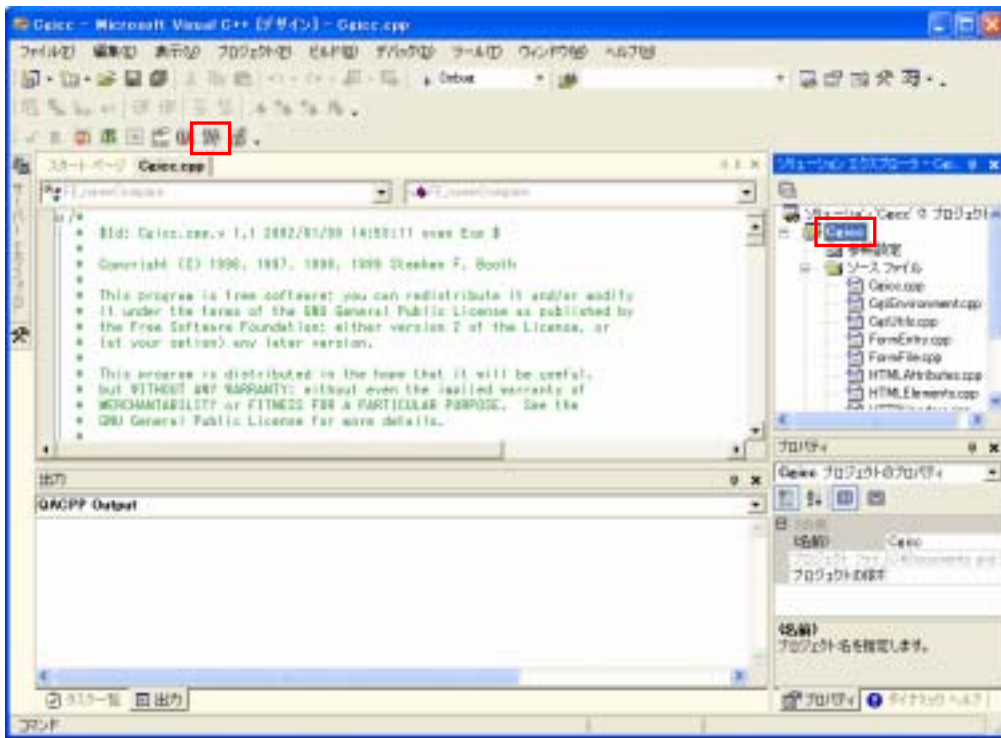


QAC++の指摘事項が画面下部のエラー一覧内に[警告]扱いで再表示されます。

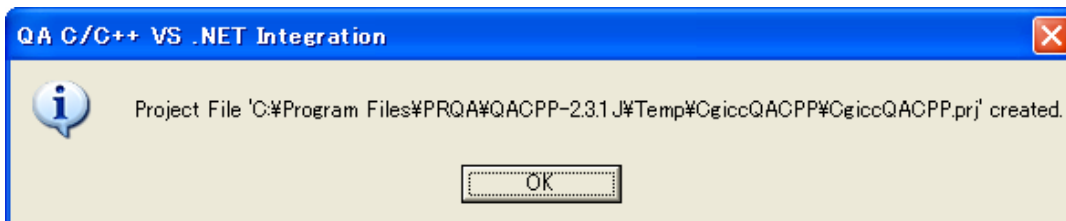


## 2.2.5. QAC++プロジェクトの作成

VS2003 のプロジェクト・ファイルから QAC++ のプロジェクトを生成する手順は次の通りです。  
QAC++ のプロジェクトを生成したい VS2003 のプロジェクトまたはソースファイルを選択します。  
[Generate QA C/C++ project] ボタンを押します



QAC++ のプロジェクトが生成されたことを示すダイアログが表示されます。



### 補足事項:

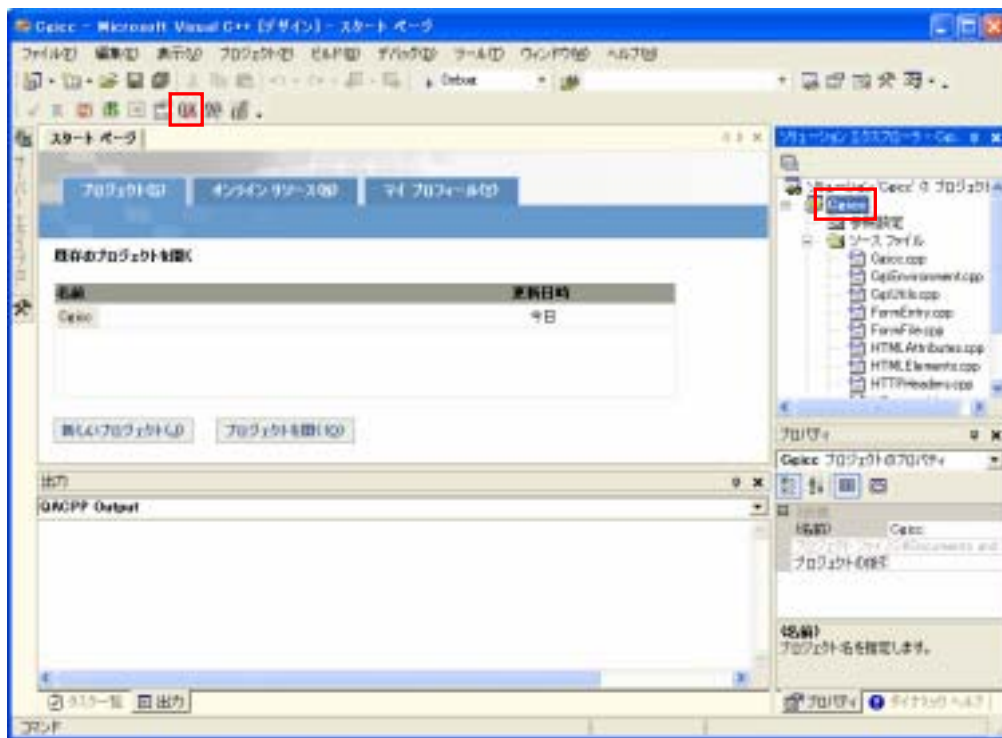
シングル・クォート '...' 内に生成されたファイルの絶対パスが表示されます。

## 2.2.6. QAC++ GUI の起動

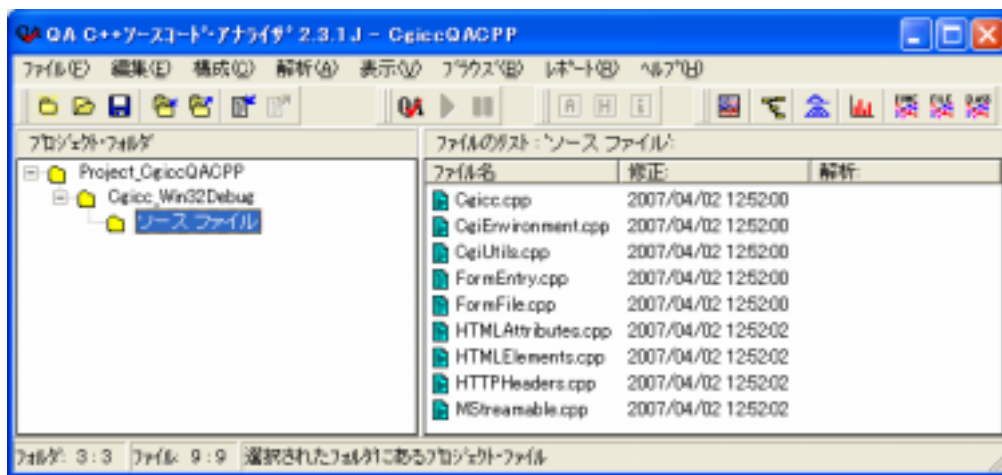
生成された QAC++ のプロジェクトを読み込んで QAC++ の GUI を起動する手順は次の通りです。

QAC++ の GUI で表示したい VS2003 のプロジェクトを選択します。

[Start QAC/ QAC++ GUI] ボタンを押します



生成された QAC++ のプロジェクトを読み込んで QAC++ の GUI が起動されます。



### 注意事項:

VS2003 インテグレータが作成するアナライザ・パーソナリティには日本語が含まれたソース・コードを適切に解析するための [-en SJ] オプションが出力されません。 VS2003 インテグレータを使用せずに VS2003 インテグレータが作成した QAC++ のプロジェクトファイルを使用して VC++2003 のソースコードを解析する場合は [-en SJ] オプションを設定してください。

## 2.2.7. 解析の中止

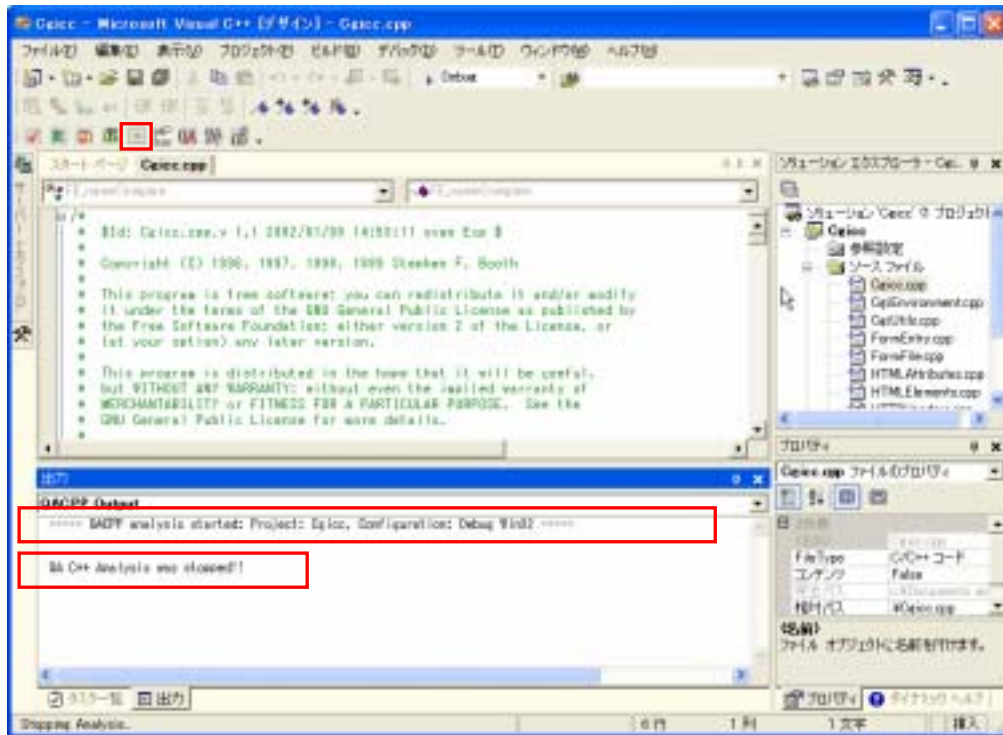
解析を中止する手順は次の通りです。

解析中であることを確認します。

[Stop Analysis]ボタンを押します。

補足: このボタンは解析中のときのみ有効になります。

画面下部の出力タブ内に[QA C++ Analysis was stopped!!]というメッセージが出力されます。

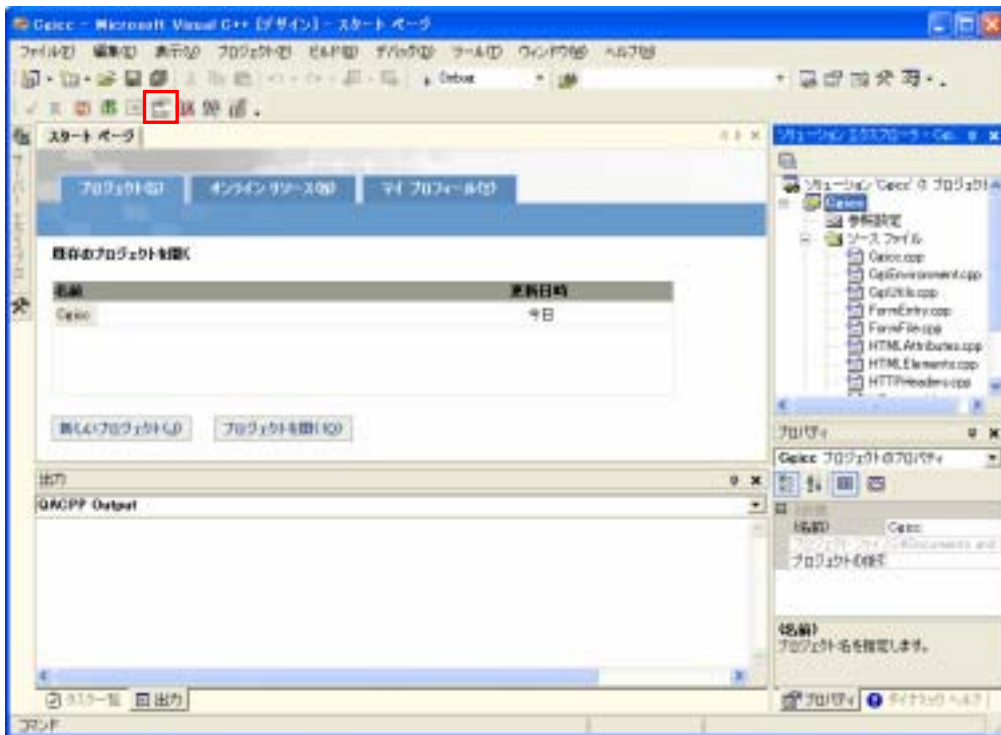


## 2.3. 解析設定の変更

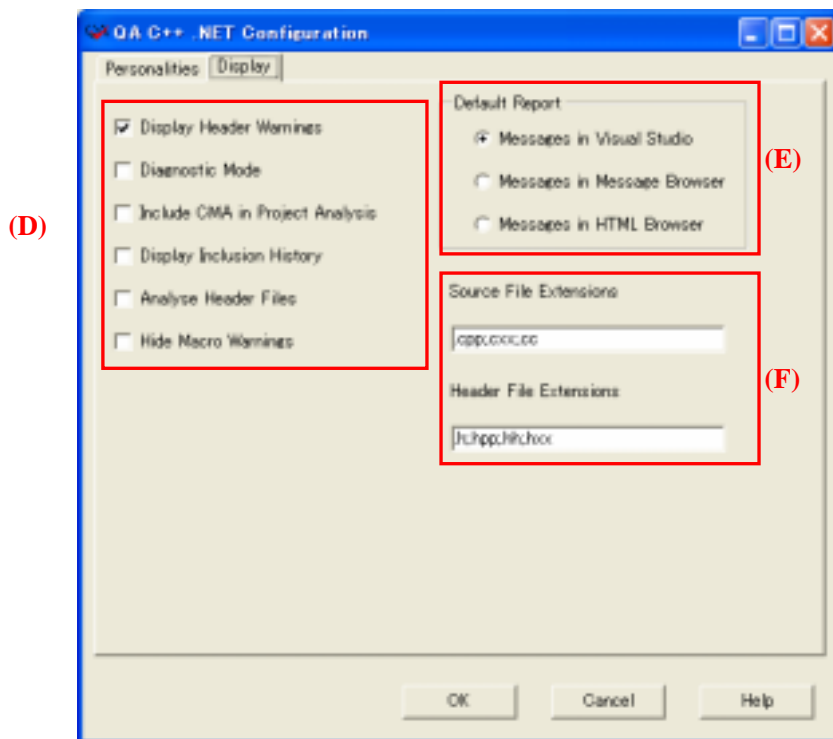
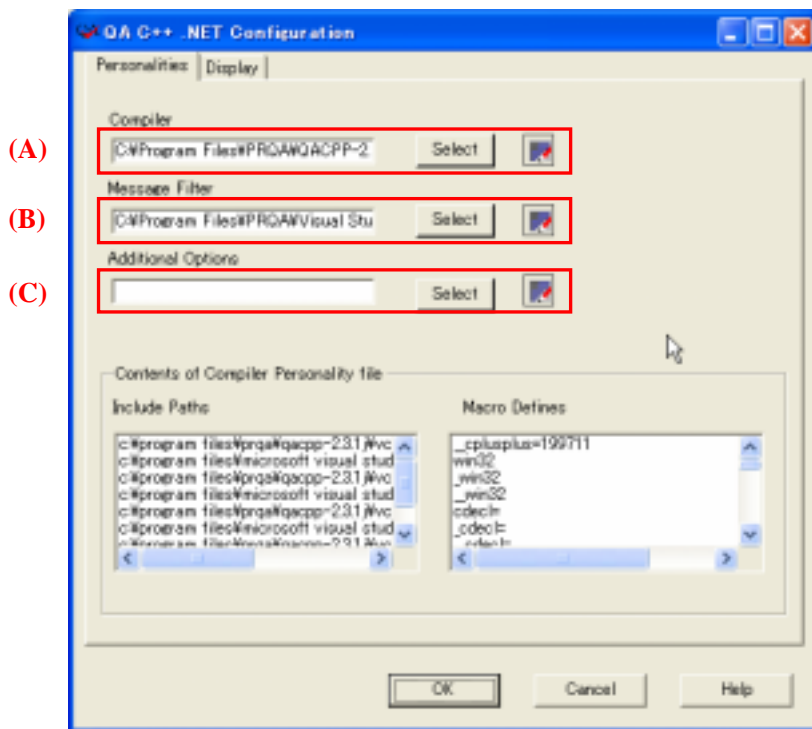
解析設定を変更することで、解析に関する動作を変更することができます。

解析設定の変更する手順は次の通りです。

[Configure QA C/C++]ボタンを押します。



解析設定を変更するためのダイアログが表示されます。



### 2.3.1. 解析設定項目の意味

解析設定項目のそれぞれの意味は次の通りです。

- (A) 使用するコンパイラ・パーソナリティを指定します。
- (B) 使用するメッセージ・パーソナリティを指定します。
- (C) 追加のオプションを記述したファイルを指定します。
- (D) 細かな動作を設定します。

Display Header Warnings	ヘッダ・ファイルから生成される警告の表示/非表示を制御します。
Diagnostic Mode	インテグレータの処理状況のみを報告するかどうかを制御します。
Include CMA in Project Analysis	プロジェクト解析時に CMA 解析を行うかどうかを制御します。
Display Inclusion History	インクルード履歴を表示するかどうかを制御します。
Analyse Header Files	ヘッダ・ファイルも含めて解析するかどうかを制御します。
Hide Macro Warnings	マクロから出力される警告を抑止するかどうかを制御します。

- (E) 解析結果の表示方法を設定します。

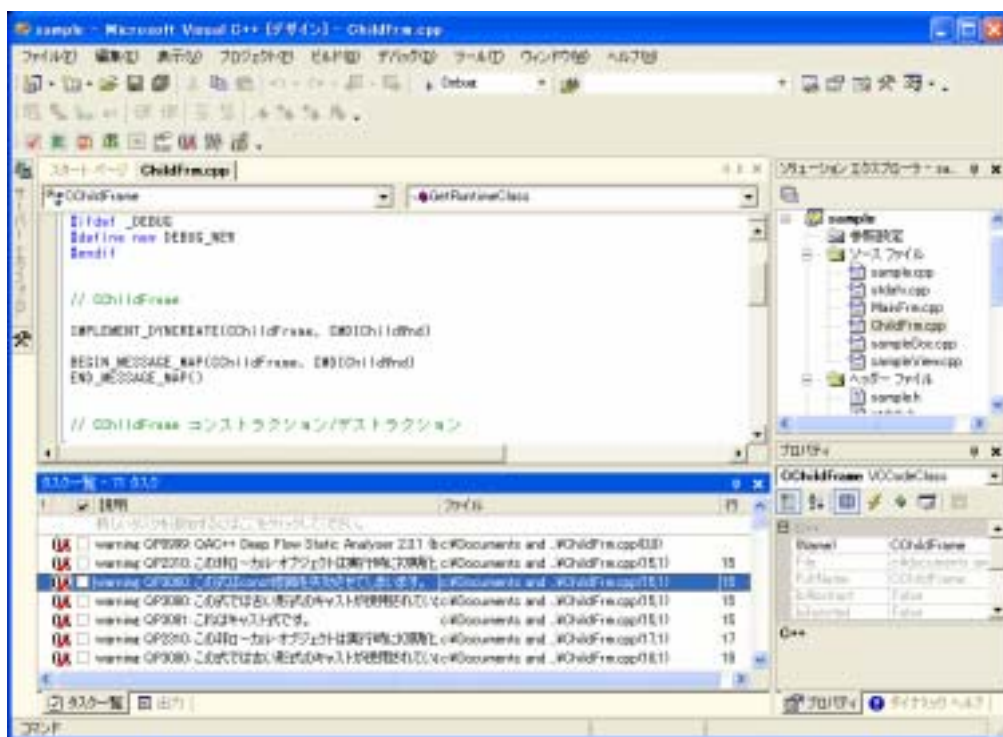
Messages in Visual Studio	VS2003 の画面下部のエラー一覧を使用して指摘事項を表示します。
Messages in Message Browser	QAC++ のメッセージブラウザを使用して指摘事項を表示します。
Messages in HTML Browser	HTML ブラウザを使用して指摘事項を表示します。

- (F) ソースファイルとヘッダ・ファイルの拡張子を設定します。

QA Source File	ソースファイルであると判断するファイルの拡張子を指定します。
QA Header File	ヘッダ・ファイルであると判断するファイルの拡張子を指定します。

(A)、(B)、(C)に記述できるオプションについては、製品付属のユーザーズガイドをご参照ください

[資料] [\[QAC++ Install Dir\]¥help¥pdf¥QACPP-2.3J-Win-UsersGuide.pdf](#)

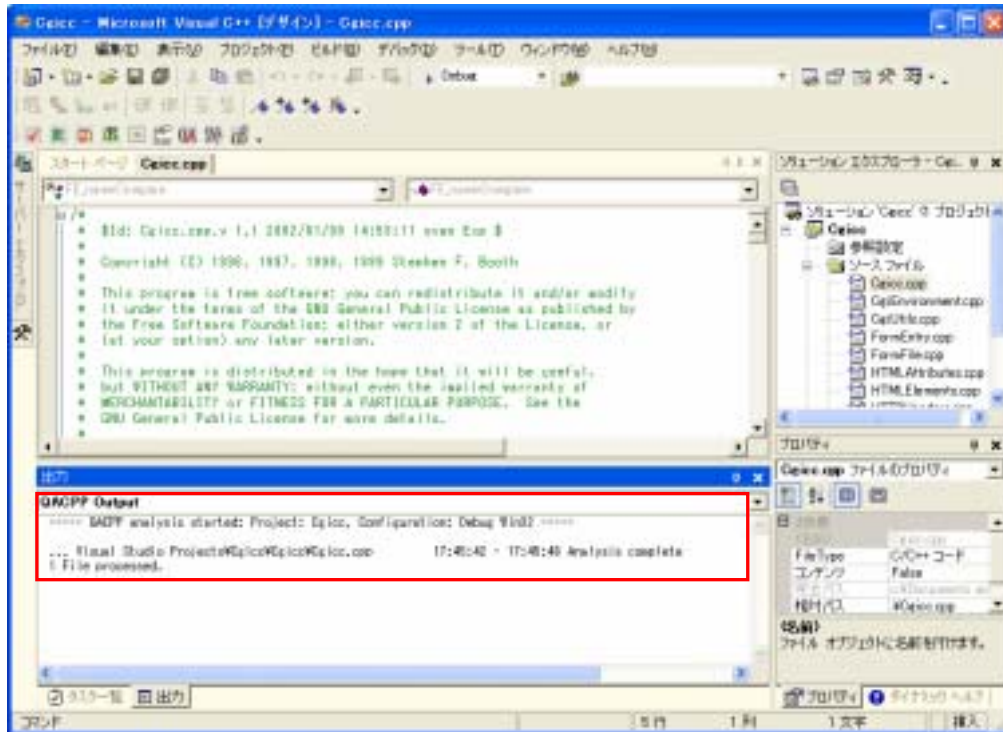


## 2.3.2. 設定変更例

いくつかの解析設定項目について設定内容を変更した場合の動作例を示します。

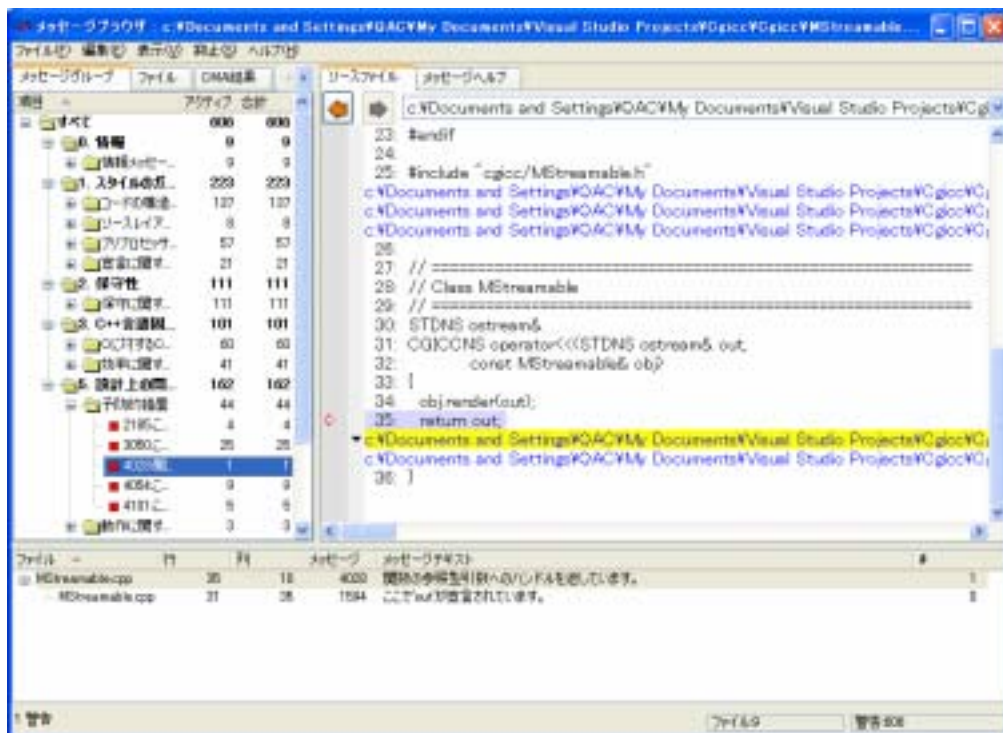
### [例 1]

[Diagnostic Mode]を ON にした場合、ファイルの解析状況のみが表示されるようになります。



### [例 2]

[Messages in Message Browser]を選択した場合、メッセージブラウザ内に指摘事項が表示されるようになります。



### [例 3]

[Messages in HTML Browser]を選択した場合、HTML ブラウザ内に指摘事項が表示されるようになります。

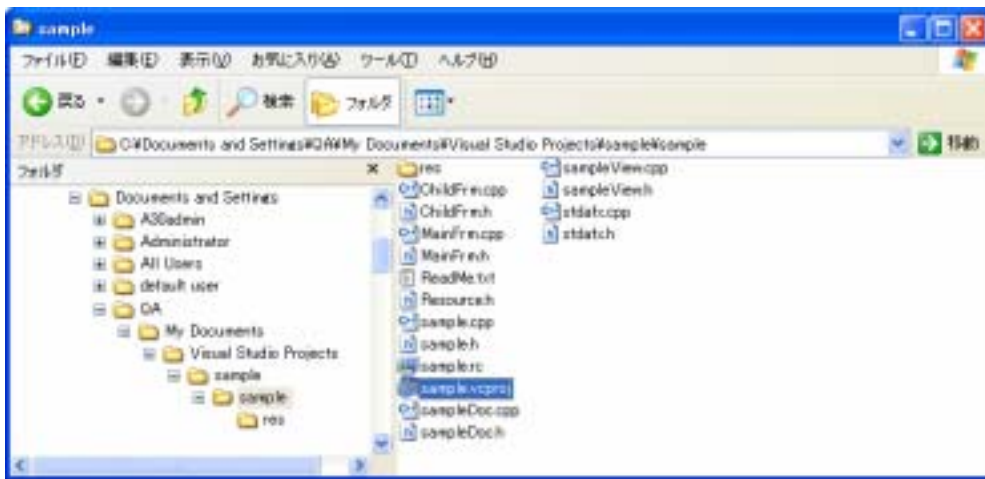


### 3. Visual Studio から QAC++プロジェクトへのコンバート

コマンドライン・プログラムを使用して VS2003 で作成されたプロジェクト・ファイル(.vcproj) から QAC++のプロジェクト・ファイル(.prj)を作成する手順を示します。


#### 3.1. 事前準備

VS2003 に作成されたプロジェクト・ファイルの格納場所を控えてください。



#### 3.2. プロジェクト・コンバータのオプション

プロジェクト・コンバータではいくつかのオプションを指定することによってお好みの構成でプロジェクトを生成することができます。プロジェクト・コンバータで使用できる代表的なオプションについて以下に説明します。

オプション	解説	補足
QAC または QACPP	QAC 用と QAC++用のどちらのプロジェクト・ファイルを作成するのかを指定します。	このオプションはプロジェクト・コンバータの第一引数として必須で指定しなければなりません。
--vc <project.vcproj>	VS2003 のプロジェクトファイルを指定します。	[3.1 事前準備] で控えたプロジェクト・ファイルを指定します。
--ext ext1;ext2;...;extn	解析対象とするファイルの拡張子を指定します。	未指定の場合、QAC++ では *.cpp, *.cxx, *.cc ファイルが対象になります。
--mp <p_s File Dir>	使用するメッセージ・パーソナリティを指定します。	通常、このオプションは必須で指定します。
--ap <p_a File Dir>	使用するアナライザ・パーソナリティを指定します。	通常、このオプションは指定しません。
--cp <p_c File Dir>	使用するコンパイラ・パーソナリティを指定します。	通常、このオプションは必須で指定します。
--op <出力先のパス>	QAC/QAC++ プロジェクト・ファイルの出力先を指定します。	未指定の場合は --vc で指定した .vcproj ファイルと同じディレクトリに作成されます。
--cfg <VC プロジェクト構成>	VS2003 から抽出するソリューション構成を指定します。	ここで何も指定しなかった場合 VS2003 に登録されているソリューション構成の数だけ同じソースファイルが登録されてしまいますので注意が必要です。 

### 3.3. プロジェクト・コンバータの実行例

VS2003 プロジェクトから QAC++プロジェクトを [作成条件] に沿って作成する例を記述します。

#### 作成条件

- ・ VS2003 のプロジェクト・ファイルは sample.vcproj。
- ・ メッセージ・パーソナリティには IndStrC++.p\_s を使用する。
- ・ コンパイラ・パーソナリティには VC++NET\_2003.p\_c を使用する。
- ・ VS2003 プロジェクトから Debug ソリューションのプロジェクトを作成する。

項目	オプション	値
製品	-	QACPP
VS2003 プロジェクト・ファイル	--vc	[VS2003 Project Output Dir]¥sample.vcproj
メッセージ・パーソナリティ	--mp	[QAC++ Install Dir] ¥personalities¥IndStrC++.p_s
コンパイラ・パーソナリティ	--cp	[QAC++ Install Dir] ¥personalities¥VC++NET_2003.p_c
QAC++ プロジェクト・ファイルの出力先	--op	[QAC++ Install Dir] ¥Temp
抽出する VC プロジェクト構成	--cfg	Debug

[作成条件] に沿ったコマンド例を以下に記述します。(各ディレクトリはソフトウェアのインストール条件によって異なります)

```
"C:¥Program Files¥PRQA¥Visual Studio NET 2003 Integration¥bin¥ProjectConverterNET.exe" QACPP
--vc "C:¥Documents and Settings¥QA¥My Documents¥Visual Studio
Projects¥sample¥sample¥sample.vcproj" --mp "C:¥Program
Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥personalities¥IndStrC++.p_s" --cp "C:¥Program
Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥personalities¥VC++NET_2003.p_c" --cfg Debug --op "C:¥Program
Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥Temp"
```

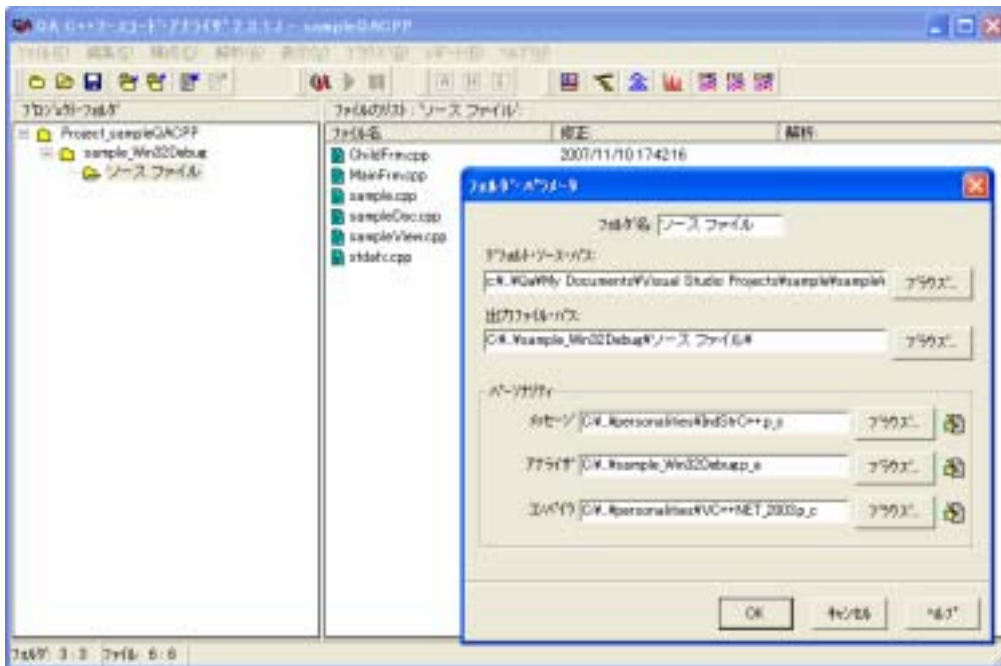
#### DOS プロンプトからコマンドを実行した結果

```
C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:¥>"C:¥Program Files¥PRQA¥Visual Studio NET 2003 Integration¥bin¥ProjectConvert
erNET.exe" QACPP --vc "C:¥Documents and Settings¥QA¥My Documents¥Visual Studio P
rojects¥sample¥sample¥sample.vcproj" --mp "C:¥Program Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥pe
rsonalities¥IndStrC++.p_s" --cp "C:¥Program Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥personalitie
s¥VC++NET_2003.p_c" --cfg Debug --op "C:¥Program Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥Temp"
Project file: C:¥Program Files¥PRQA¥QACPP-2.3.1J¥Temp¥sampleQACPP¥sampleQACPP.pr
j was created.

C:¥>_
```

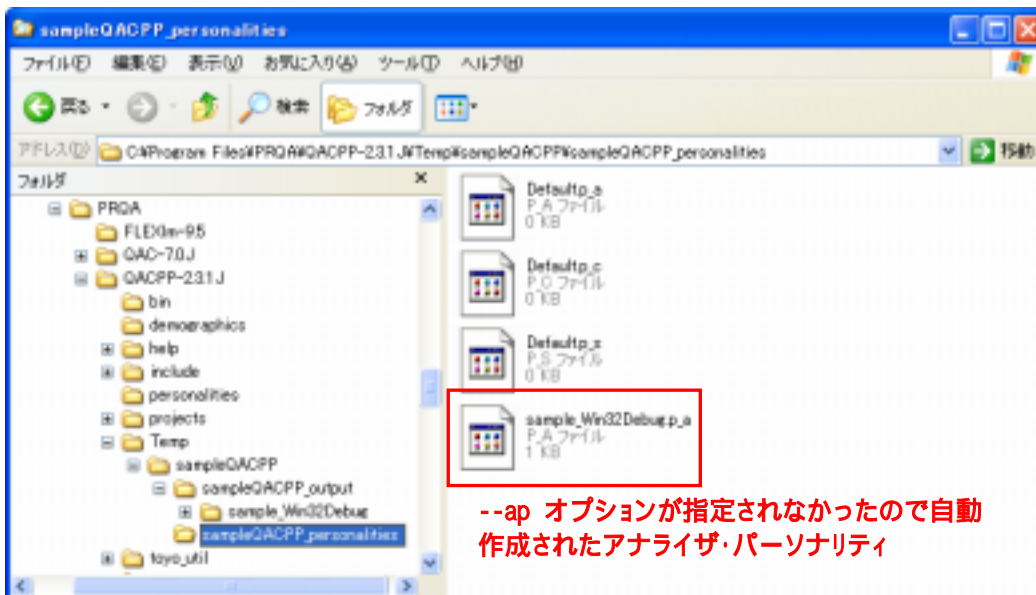
作成したプロジェクト・ファイルは QAC++ の GUI で読み込むことができます。



プロジェクトコンバータは、--op オプションで指定したディレクトリ配下に [VC++2003 プロジェクト名]+QACPP の名前でディレクトリを作成し [VC++2003 プロジェクト名]+QACPP\_personalities に自動生成したパーソナリティ・ファイルを格納します。

プロジェクト・コンバータは、--ap オプションが指定されなかった場合、VC++2003 のプロジェクトファイルから必要な情報を抽出して適切なパーソナリティファイルを作成します。

上記の起動例では、--op オプションに "C:\Program Files\PRQA\QACPP-2.3.1J\Temp"、VC++2003 プロジェクト名が sample のプロジェクト・ファイルを --vc オプションで指定したので、以下のディレクトリに作成されたパーソナリティ・ファイルが格納されます。



以上の操作においてご質問等ございましたら、(株)東陽テクニカ ソフトウェア・ソリューションのサポート担当までお問い合わせ下さい。

(株)東陽テクニカ ソフトウェア・ソリューション

〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6

TEL. 03-3279-0771 FAX. 03-3246-0645

E-mail (営業窓口): SS\_Sales@toyo.co.jp

E-mail (サポート窓口): SS\_Support@toyo.co.jp

URL: <http://www.toyo.co.jp/ss>

---

Windows, Microsoft, Visual Studio, Visual C++は、Microsoft Corporation の登録商標です。